無線 ブロードバンドルータ

BLW-54PM

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

無線 ブロードバンドルータ

BLW-54PM

使用前に必ずお読みください

■本書の目的

本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくお使いいただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

■ご注意

- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第3者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 通信内容や保持情報の漏洩、改竄、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本製品は、一般家庭や小規模事業所におけるブロードバンド環境下での利用を前提にしています。物理的・論理的に規模の大きなネットワークや、一般的ではない環境または目的で本製品を使用した場合、正常に動作しない可能性があります。
- 本製品パッケージ等に記載されている性能値（スループット）は、当社試験環境下での参考測定値であり、お客様環境下での性能を保証するものではありません。また、バージョンアップ等により予告無く性能が上下することがあります。
- ハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品内部のソフトウェア（ファームウェア）更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関しての保証は一切ありません。
- 一般的に、インターネットなどの公衆網の利用に際しては、通信事業者との契約が必要になります。
- 通信事業者によっては公衆網に接続可能な端末台数を制限、あるいは台数に応じた料金を設定している場合があります。通信事業者との契約内容をご確認ください。
- 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- 本製品は日本国内仕様であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。

■著作権等

- 本書に関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社へ独占的に帰属します。プラネックスコミュニケーションズ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態及び手段を問わず、本書の記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- 本書の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、本書の記述に誤りや欠落があった場合もプラネックスコミュニケーションズ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
- 本書の記述に関する、不明な点や誤りなどお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書および記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。
本マニュアルにおける記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

●記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

User's Manual version 1.1　　No.PMN-05-06-NW-BLW-54PM

本製品を安全にご利用いただくために

本製品のご利用に際して、以下の警告および注意をご覧いただき必ずお守りください。これらの事項が守られないとき、**「感電」「火災」「故障」**などが発生する場合があります。
これによって本製品を利用される方が負傷されたり死亡につながる恐れがあります。また、万一**「発火」「発煙」「溶解」**などが発生した場合には速やかに本製品の利用を中止し、弊社サポートセンターへ連絡するようお願いいたします。

⚠ 警告

■ 無線機器に関して

・心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている近くで本製品をご利用にならないでください。
列車内など、人と人が近接する可能性のある場所では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。
これは心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用されている方と近接することで、万一にでもそれらの機器に影響を与えることを防ぐためです。

・医療機関内でのご利用は各医療機関の案内および指示にしたがってください。
医療機関内では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。これは万一にでも各種医療機器へ影響を与えて事故の原因となる恐れを防ぐためです。本製品の電波出力は規定に沿ったもので、各医療機器への影響は少ないですが、前述の心臓ペースメーカーなどへの影響の可能性もあるため、ご利用に関しては各医療機関の案内および指示にしたがってください。詳しくは各医療機関へお問い合わせください。

・交通機関内でのご利用は各交通機関の案内および指示にしたがってください。
交通機関内では、本製品をコンピュータから取り外すか、無線LAN機能を無効にしてください。これは各種交通機関の制御装置や機器などに影響を与える恐れを防ぐためです。特に各航空会社については、航空機の飛行状況などによって、機内での電子機器や無線機器の利用を禁止しています。航空機の装置などへ影響を与えて事故の原因となる恐れがあるため、本製品は機内でご利用にならないでください。詳しくは各交通機関へお問い合わせください。

・電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。
電子レンジを使用するとき、電磁波の影響によって無線通信が妨害される恐れがあります。このため電子レンジの近くで本製品をご利用にならないでください。これは電磁妨害によって本製品の通信が途絶えたり速度が遅くなったりなどの動作が不安定になるのを防ぐためです。

■ 設置及び保管に関して

・動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。
範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで本製品をご利用にならないでください。
本製品が加熱することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・温度変化の激しい場所で本製品をご利用にならないでください。
動作範囲内の温度であっても温度変化が激しい場所でご利用することで、結露などが原因で感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。
本製品に液体がこぼれることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは取り除いてください。
コンピュータの取り付け口に異物が混入した状態で本製品を取り付けることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。
・本製品を分解、改造しないでください。
本製品を分解または改造することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。また改造は法律で禁止されています。

■ 電波に関して

・本製品の無線LANの周波数帯は、医療機器、電子レンジなどの産業・科学機器や工場の生産ラインなどで使用される移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局と重複しているため、電波の干渉による無線通信の障害が発生する恐れがあります。本製品のご利用の前に、干渉範囲内に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。
・万一、本製品使用中に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波の干渉が発生したときは、速やかに周波数を変更するか使用を中止してください。
・その他、本製品から移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波干渉など何かお困りのことが発生したときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

2.4 DSOF 4

■ 取り扱いに関して

・高温に注意してください。
本製品の使用中は高温になっている恐れがあります。不用意に触ると火傷の恐れがあります。

・湿気やほこりの多いところに保管しないでください。
湿気やほこりの多いところに保管することで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・本製品を重ねて設置しないでください。
本製品を重ねて設置することで製品が加熱し、感電、火災などの発生、または本製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用にならないでください。
振動の多い場所や不安定な場所で本製品をご利用になることで、本製品の落下、誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

・静電気に注意してください。
本製品は精密機器です。静電気の影響によって、製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。本製品を取り付ける際は、コネクタや取り付け部分を触れないなどの注意をしてください。

・落下や衝撃に注意してください。
本製品に落下や衝撃を与えることで、感電、火災などの発生、または製品の誤作動、故障などの原因となる恐れがあります。

■ その他

・本製品は日本国内でご利用ください。
本製品は日本の国内法のもとで利用可能な製品です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。

・ご利用のコンピュータのデータのバックアップを取得してください。
本製品のご利用にかかわらず、コンピュータのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったとき回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。

■無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利〈プライバシー保護〉に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りをおこなうため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定をおこっていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される
悪意ある第三者が無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定をおこなって製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがっておこなってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
弊社では、お客様がセキュリティの設定をおこなわないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定をおこない、製品を使用することをお奨めします。

目次

第1章

はじめに

1 概要

本製品はADSL、FTTHおよびCATV（ケーブルTV）接続を使った高速インターネット接続に対応した高性能ブロードバンドルータです。
また、IEEE802.11gに準拠した無線機能を内蔵し、有線LANと無線LANをシームレスに構築することができます。IEEE802.11gは従来の802.11bとも互換があり、既存の無線LAN環境を利用し、柔軟なLAN環境を構築できます。

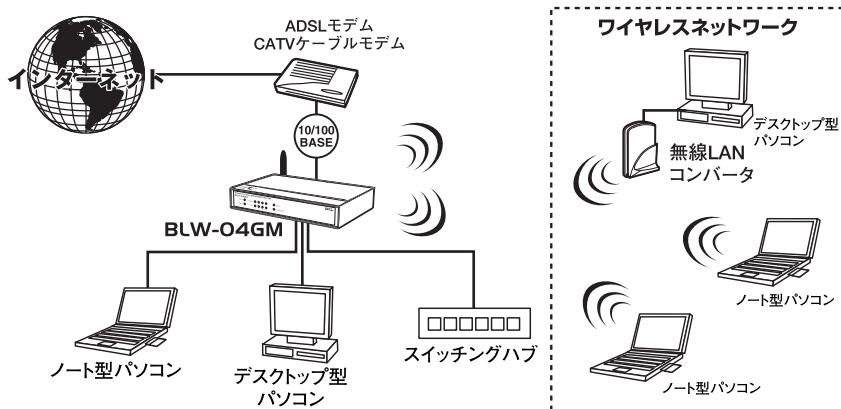



図1-1　接続図

注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合もあります。プロバイダとの契約内容についてご確認ください。

2 特長

●IEEE802.11g無線機能

IEEE802.11g準拠の無線機能を内蔵。
セキュリティには64bit/128bit WEPに対応し、SSIDを隠す機能により、第三者からの無断アクセスを防ぎます。

●PPPoEクライアント機能

Bフレッツ、フレッツADSLに対応し、インターネット接続時にフレッツ接続ツール等を使用せずに簡単にインターネットに接続できます。

●PPPoEマルチセッション機能

複数のPPPoEアカウントに対し同時に接続することができます。本製品の最大セッション数は2です。

●PPPoE以外の接続

本製品はPPPoE以外のサービスに対応しています。PPPoE以外の自動取得、固定IPアドレスを設定することができます。

●LAN側IPアドレス設定

本製品のLAN側IPアドレスは192.168.1.1になります。お使いのLAN環境に合わせてLAN側のIPアドレスを変更することができます。

●NAPT機能

複数のプライベートアドレスを１つのグローバルアドレスに変換します。この機能によりLAN側に複数のパソコンがある場合でも、簡単にインターネットに接続できます。

●DHCPサーバ機能

LAN側のパソコンやネットワーク機器に動的にIPアドレスを割り当てることができます。また、割り当てるIPアドレスの範囲を設定することもできます。

●ルーティング機能

本製品と他のネットワーク機器のルーティング情報を静的に設定できる、スタティックルーティングに対応。また、動的に経路情報をやり取りするRIPv1にも対応しています。

●UPnP
Universal Plug and Play Internet Gateway Device v1.0に準拠し、WindowsMessenger Ver5.0以上やMSN Messenger Ver4.8などのUPnPアプリケーションを簡単に利用することができます。

●SPI機能
SPI（ステートフル・パケット・インスペクション）に対応。

●リモートアクセス機能
本製品はセキュリティを保つために、WAN側からの設定画面へのアクセスは制限されています。遠隔地から本製品の設定を変更する場合は、リモートアクセス機能を利用することで、WAN側から設定画面にアクセスができ、本製品の保守、管理を行うことができます。

●URLフィルタ
LAN側のパソコンから閲覧を禁止したいWEBサイトを登録することで、特定のWEBサイトへのアクセスを制限することができます。

●E-Mail通知機能
本製品に通知先のE-Mailを登録することで、本製品がDoS攻撃を受けたときに自動的に通知することができます。

●ローカルサーバ機能
WAN側からアクセスがあった時に、予め設定してあるLAN側の特定のパソコンへパケットを転送することで、LAN側に設定してあるサーバやサービスをWAN側に公開することができます。

●バーチャルコンピュータ
バーチャルコンピュータ機能を使用すると、LAN側にある1台のパソコンをWAN側に公開することができます。ローカルサーバ機能で、設定するためのポート情報が分からない場合、1台のパソコンに全てのサービスを設定しWAN側に公開したい場合などに利用できます。

●ダイナミックDNS機能
ダイナミックDNSの設定を行うことで、WAN側のIPアドレスをダイナミックDNSサーバに一定間隔で通知します。これにより、回線切断や再接続でWAN側のIPアドレスが変わってしまった場合でも、固定のホスト名が利用できます。

3 各部の名称

■本体前面

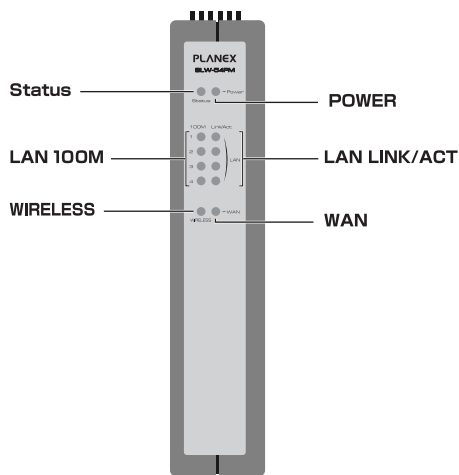



図1-2 BLW-54PM本体前面

【LED表示】

Power	緑	点灯 消灯	電源が投入されています 電源が切れています
Status	赤	点滅	起動中です
LAN Link/Act	緑	点灯 消灯 点滅	LINKが確立しています LINKが確立していません データの送受信中です
LAN 100M	橙	点灯 消灯	100MでLINKが確立しています 10MでLINKが確立している、 もしくは、LINKが確立していない
WAN	緑	点灯 消灯 点滅	LINKが確立しています LINKが確立していません データの送受信中です
Wireless	緑	点灯 消灯	無線LANが確立しています 無線LANが確立してません

■本体背面

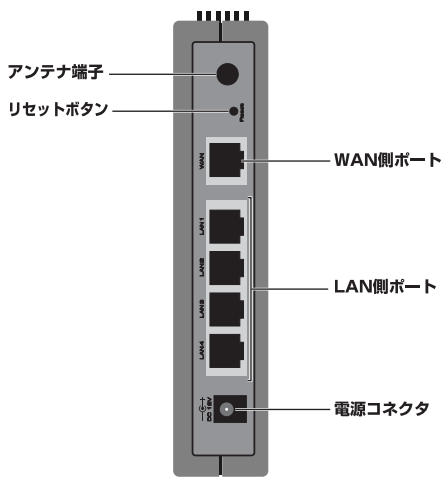



図1-3 BLW-54PM 本体背面

「アンテナ端子」
無線用のアンテナ取り付け端子です

「リセットボタン」
初期化用のリセットスイッチです

「WAN側ポート」
ADSL、FTTH、ケーブルモデムと接続するためのRJ-45ポートです

「LAN側ポート」
パソコンと接続するためのRJ-45ポートです

「電源コネクタ」
電源アダプタのコネクタを差し込みます

■本体裏面

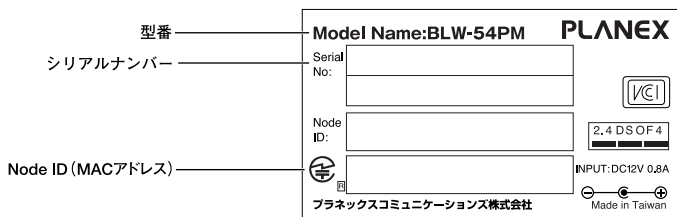



図1-4 BLW-54PM本体裏面

「品番」Model Name
本製品の型番です

「シリアルナンバー」S/N
本製品のシリアル番号です

「LAN側MACアドレス」LAN
本製品のLAN側のMACアドレスです

「WAN側MACアドレス」WAN
本製品のWAN側のMACアドレスです

4 対応機器

■コンピュータ機器

本製品は以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

●Windows 98SE/Me/2000/XPを搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

●TCP/IPか利用できるOS（MAC OSなど）を搭載し、Ethernet（RJ-45）ポートを装備したコンピュータ

■ネットワーク機器

本製品では以下のネットワーク機器が必要になります。

●ツイストペアケーブル（本製品に接続するコンピュータの台数分）

■WEB設定画面について

本製品はWEBブラウザで設定を行います。
コンピュータに以下のWEBブラウザがインストールされている必要があります。
また、WEBブラウザでJavaScriptが使用できるかどうか、設定を確認してください。

●Windowsの場合は、Microsoft Internet Explorer5.0以上またはNetScape Navigator6.0以上

●MacOSの場合は、Microsoft Internet Explorer5.0以上またはNetScape Navigator6.0以上

5 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまった時や、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときは、本製品の設定を初期化することで購入時の状態に戻すことができます。

注意

●設定の初期化を行うと、それまで設定されてた値は全て消去され購入時の状態に戻りますのでご注意ください。
●初期化を実行する前に予め本製品に接続してるケーブルをポートから外しておくことを推奨します。
●初期化が完了するまで、本製品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

■本製品の初期化手順

1. 本製品の裏面にある「Reset」を押します。
2. Status LEDが赤く点灯します。
3. 30秒程で、Status LEDが素早く点滅し出しますので、「Reset」を離します。
4. 初期化及び再起動がおこなわれます。
5. 各種LEDが正常な表示になったら、作業は終了です。

ハードウェアの接続

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム等、コンピュータとの接続手順について説明します。

1 設置場所について

本製品を設置する際には必ず以下の点をお守りください。

●湿気の多い場所には設置しない。
●チリやほこりの多い場所には設置しない。
●直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しない。
●内部に熱がこもる原因となるため、周囲にはなるべく空間を空ける。

注意

通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

2 設置する

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使ってください。

図2-1　設置図

図のように本体の下にあるスタンドを回して設置してください。

3 ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムとの接続

■接続前の準備

●ADSLモデム/Bフレッツ用回線終端装置/ケーブルモデムの電源は切ってください。電源スイッチがないタイプはコンセントからAC電源アダプタを抜いてください。

●本製品付属のツイストペアケーブルをご用意ください。

■ADSLモデムとの接続

本製品のWANポートと、ADSLモデムのEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。

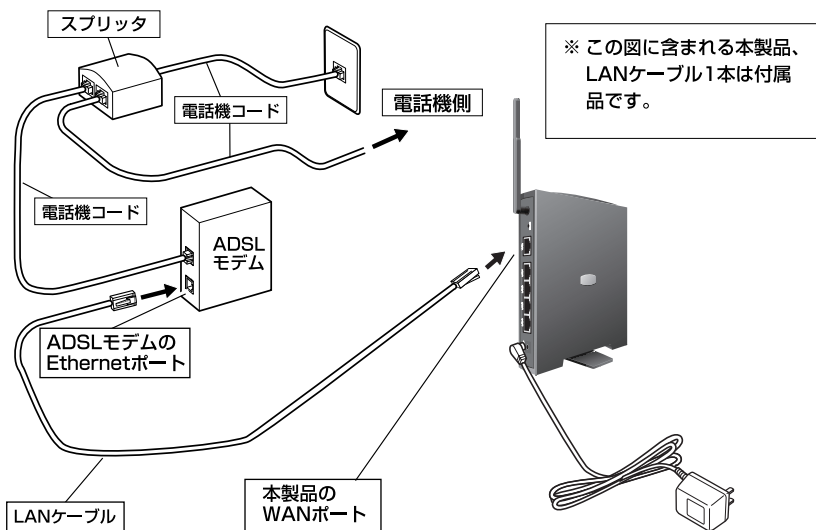



図2-2　ADSLモデムとの接続

■Bフレッツ用回線終端装置との接続

本製品のWANポートと、”Bフレッツ”用回線終端装置のEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。

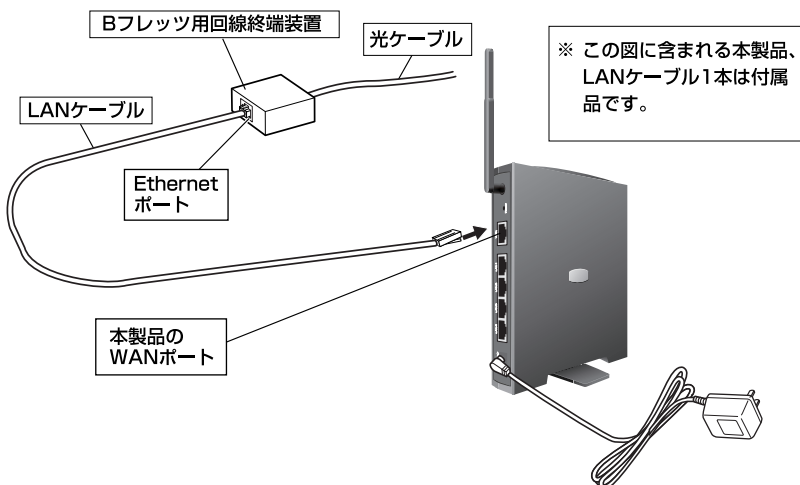



図2-3　Bフレッツ用回線終端装置との接続

■ケーブルモデムとの接続

本製品のWANポートと、”ケーブルモデム”用回線終端装置のEthernetポートを、LANケーブルでつなぎます。

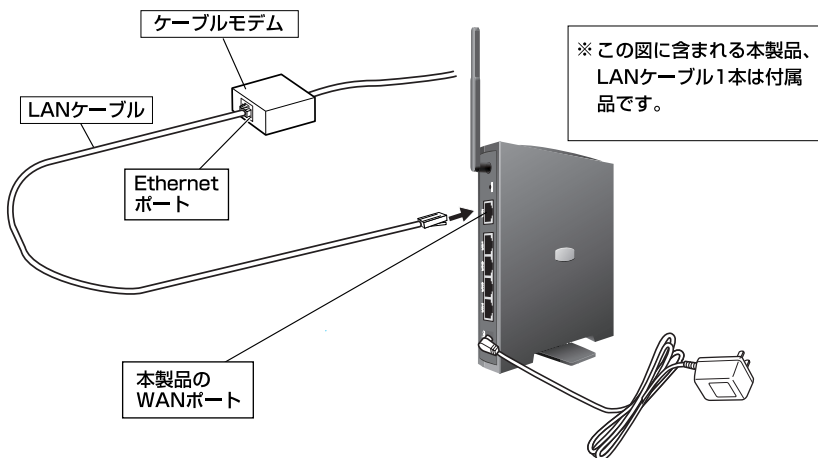



図2-4　ケーブルモデムとの接続

4 パソコンとの接続

1. ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN 側ポートに接続します。本製品のLAN 側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI - X に対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバタイプのどちらでも使用できます。

2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ-45 ポートに接続します。このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかりささっているか確認してください。

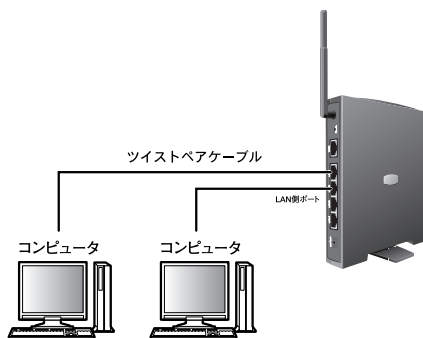



図2-5　コンピュータとの接続

5 電源の接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。

2. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。

3. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。

4. コンピュータの電源を入れてください。

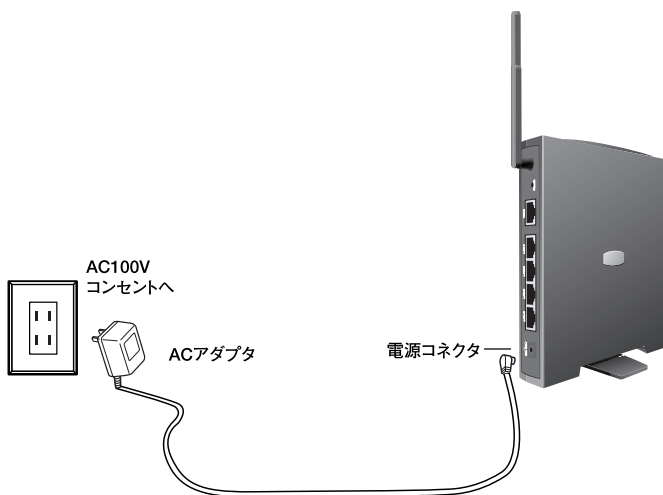



図2-6　電源の接続

注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

パソコンの設定

本章では、インターネットに接続するために、パソコンのネットワーク設定を確認し必要に応じて設定を変更します。
なお、本製品に接続する全てのパソコンでこの設定を行う必要があります。
設定方法はOSによって異なります。お使いのOSに該当するページをお読みください。

■パソコンのネットワーク設定を行う

■本製品とパソコンの接続を確認する

1 パソコンのネットワーク設定をおこなう

■Windows® XPの場合

注意

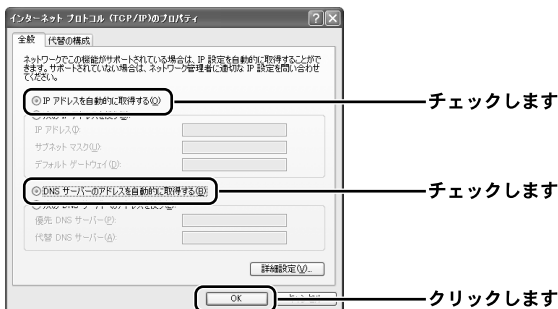
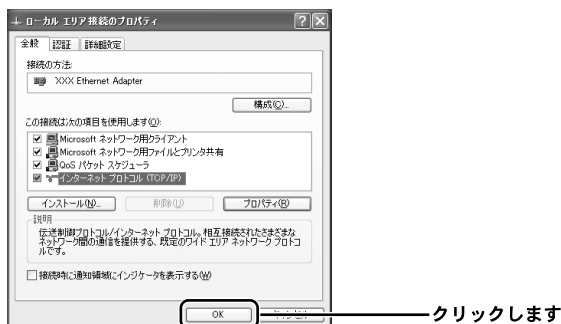
●この作業を行うには「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。
●以下の操作手順および表示画面はWinodows® XPの初期状態の場合です。Windows® XPの設定によっては異なる場合があります。

1. [スタート] − [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] をクリックします。

2. [ネットワークとインターネット接続] の画面が表示されます。
[ネットワーク接続] をクリックします。

3. [ネットワーク接続] の画面が表示されます。
[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

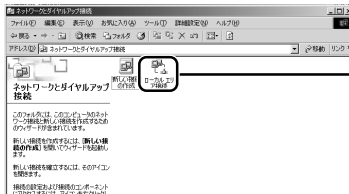
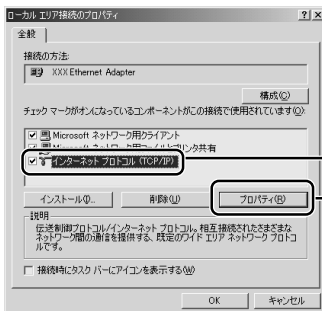
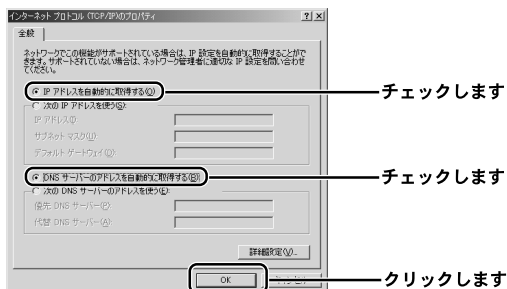
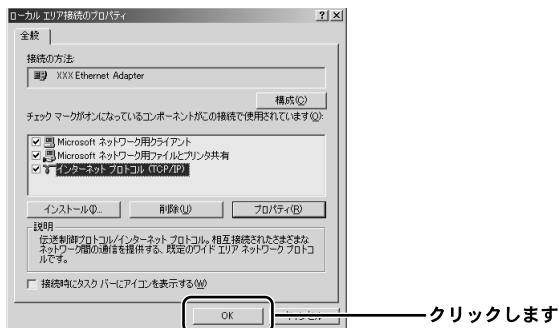
4. ［ローカルエリア接続のプロパティ］の画面が表示されます。
［インターネットプロトコル（TCP/IP)］を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5. ［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］の画面が表示されます。
［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバのアドレスを自動的に取得する］にチェックします。［OK］をクリックします。

6. ［ローカルエリア接続のプロパティ］の画面に戻ります。
［OK］をクリックします。

■Windows® 2000の場合

> **⚠ 注意**
>
> ***この作業を行うには［Administrator］または同等の権限を持つユーザでログオンする必要があります。***

1. ［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］を選択します。

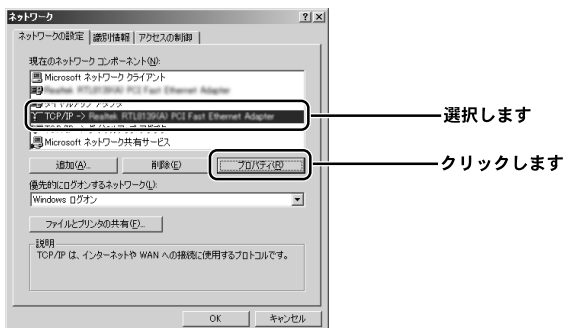
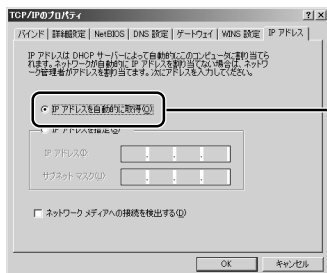
2. ［コントロールパネル］の画面が表示されます。
［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。

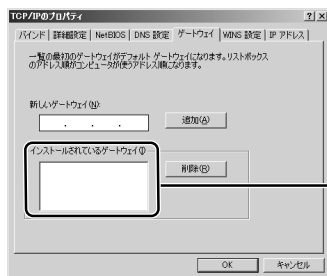
3. ［ネットワークとダイヤルアップ接続］の画面が表示されます。
［ローカルエリア接続］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。

4. ［ローカルエリア接続のプロパティ］の画面が表示されます。
［インターネットプロトコル（TCP/IP）］を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5. ［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］の画面が表示されます。
［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバのアドレスを自動的に取得する］にチェックします。［OK］をクリックします。

6. ［ローカルエリア接続のプロパティ］の画面に戻ります。
［OK］をクリックします。

■Windows® Me/98SEの場合

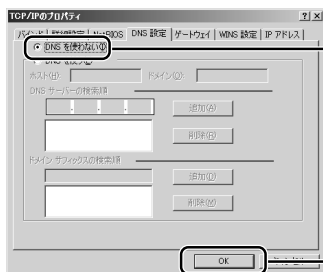
1. [スタート] − [設定] − [コントロールパネル] を選択します。

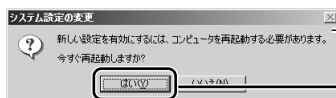
2. [コントロールパネル] の画面が表示されます。
[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

※Windows® Meで [ネットワーク] アイコンが表示されない場合は、コントロールパネル左側の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する] をクリックしてください。

3. [ネットワーク] の画面が表示されます。
[現在のネットワークコンポーネント] 欄から [TCP/IP → お使いのLANカード (またはLANボード)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。

4. [TCP/IPのプロパティ] の画面が表示されます。
[IPアドレス] タブをクリックし、[IPアドレスを自動的に取得] をチェックします。

5. [ゲートウェイ] タブをクリックし、[インストールされているゲートウェイ] 欄に何も設定されてないのを確認します。

注意

IPアドレスが表示されてる場合は、表示されてる数字を選択し、右の [削除] をクリックします。

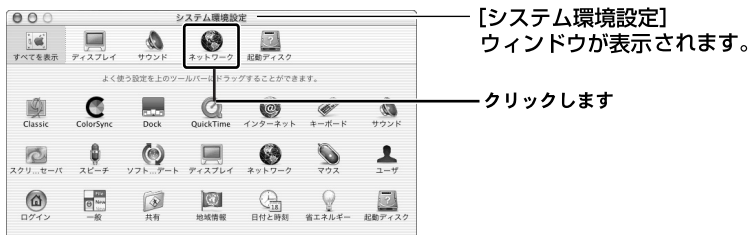
6. [DNS設定] タブをクリックし、[DNSを使わない] をチェックします。
[OK] をクリックします。

7. ［ネットワーク］の画面に戻ります。
［OK］をクリックします。

8. 再起動を要求するメッセージが表示されましたら、［はい］をクリックして、パソコンを再起動します。

3
パソコンの設定

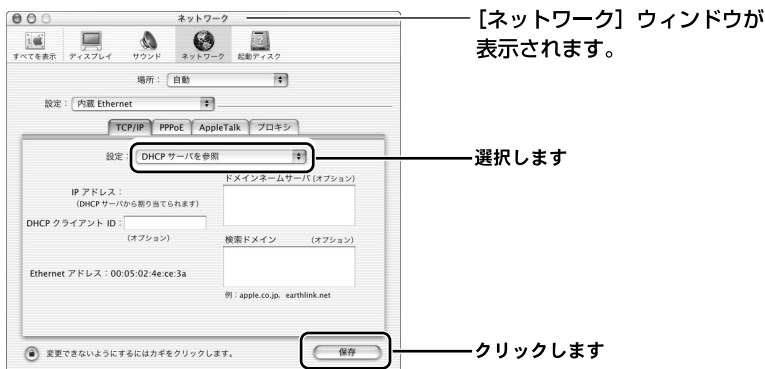
■Mac® OS Xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから［システム環境設定］を選択します。

2. ［システム環境設定］の画面が表示されます。
［ネットワーク］アイコンをクリックします。

※ここに［ネットワーク］アイコンが表示されない場合は、［すべてを表示］アイコンをクリックします。

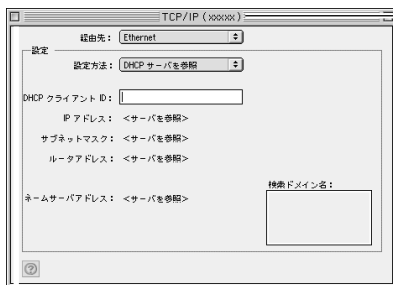
3. ［ネットワーク］の画面が表示されます。
［設定］欄から［(内蔵）Ethernet］を選択します。

4. ［TCP/IP］タブをクリックし、［設定］欄から［DHCPサーバを参照］を選択します。
［保存］をクリックします。

※[DHCPサーバを参照]が表示されないときは、「PPPoE」タブをクリックして、「PPPoEを使って接続する」をオフにします。

■Mac® OS9.x/8.xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから［コントロールパネル］－［TCP/IP］を選択します。

2. ［TCP/IP］の画面が表示されます。
［経由先］欄から［Ethernet］を選択し、［設定方法］欄から［DHCPサーバを参照］を選択します。

［TCP/IP］ウィンドウが表示されます。

3. クローズボックスをクリックし、画面を閉じます。
確認ウィンドウが表示されたら、［保存］をクリックします。

2　本製品とパソコンとの接続を確認する

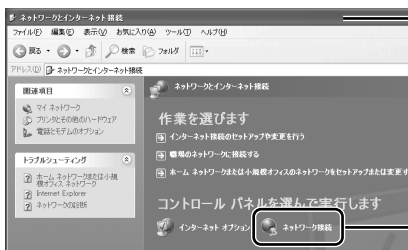
ここでは、パソコンに正しいIPアドレスが割り当てられてるか確認します。

注意

●本製品のDHCPサーバ機能は、初期状態で有効に設定されているため、パソコンにIPアドレスが自動的に割り当てられます。
●本製品のLAN側IPアドレスは、初期状態では「192.168.1.1」に設定されています。

■Windows® XPの場合

1. ［スタート］－［コントロールパネル］を選択し、［ネットワークとインターネット接続］をダブルクリックします。

2. ［ネットワークとインターネット接続］の画面が表示されます。
［ネットワーク接続］をクリックします。

3. [ネットワーク接続] の画面が表示されます。
[ローカルエリア接続] を右クリックし、[状態] をクリックします。

4. [ローカルエリア接続の状態] の画面が表示されます。
[サポート] タブをクリックし、[IPアドレス] 欄を確認します。
IPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

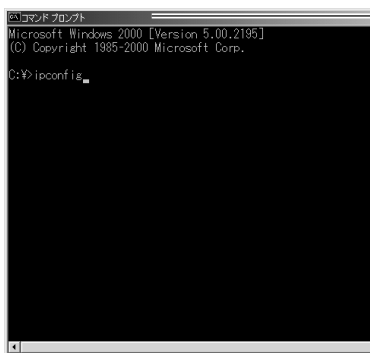
注意

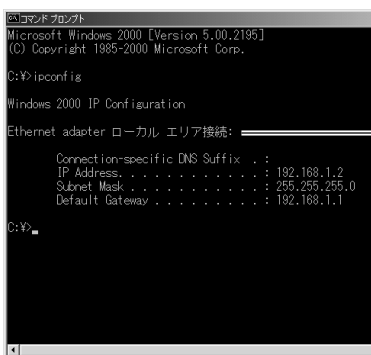
別のIPアドレスが表示された場合は、[修復] をクリックしてください。

5. [閉じる] をクリックします。

■Windows® 2000の場合

1. ［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］－［コマンドプロンプト］を選択します。

2. ［コマンドプロンプト］の画面が表示されます。
［C:¥>］に続けて、［ipconfig］と入力しキーボードの［Enter］キーを押します。

［コマンドプロンプト］の画面が表示されます。

3. 画面に［Ethernet　adapterローカル　エリア接続：］の情報が表示されます。
［IP Address］の項目でIPアドレスが「192.168.1.x」になってることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

同じ画面に、［Ethernet　adapter ローカル　エリア接続：］の情報が表示されます。

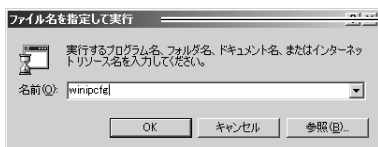
注意

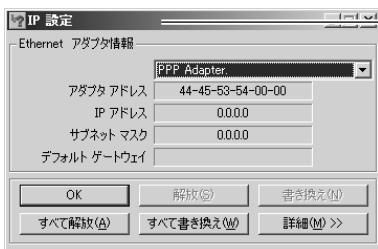
別のIPアドレスが表示された場合は、［C:¥>］に続けて［ipconfig/renew］と入力し、［Enter］キーを押します。

4. コマンドプロンプトの画面を閉じます。

■Windows® Me/98SEの場合

1. [スタート] ― [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

2. [ファイル名を指定して実行] の画面が表示されます。
[名前] 欄に [winipcfg] と入力し、[OK] をクリックします。

[ファイル名を指定して実行] ウィンドウが表示されます。

3. [IP設定] の画面が表示されます。
[アダプタ情報] 欄からお使いのLANカード/ボードを選択します。

[IP 設定] ウィンドウが表示されます。

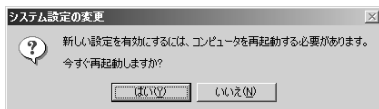
4. IPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

※別の IP アドレスが表示された場合は、[解放] ボタンをクリックし、[書き換え] ボタンをクリックしてください。

注意

別のIPアドレスが表示された場合は、［解放］をクリックし、［書き換え］をクリックします。

5. [Ok] をクリックします。

6. 再起動を要求するメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックし再起動します。

■Mac® OS Xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから［システム環境設定］を選択します。

2. ［システム環境設定］画面が表示されます。
［ネットワーク］アイコンをクリックします。

※ここに［ネットワーク］アイコンが表示されない場合は、［すべてを表示］アイコンをクリックします。

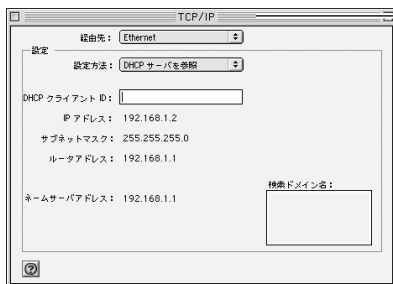
3. ［ネットワーク］画面が表示されます。
［設定］欄から［（内蔵）Ethernet］を選択します。［TCP/IP］タブをクリックし、［IPアドレス］欄に表示されてるIPアドレスが「192.168.1.x」になっていることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

※別のIPアドレスが表示された場合は、お使いのパソコンを再起動してください。
正しいIPアドレスが自動取得されます。

■Mac® OS 9.x/8.xの場合

※表示される画面はMac® OSのバージョンによって異なります。

1. アップルメニューから［コントロールパネル］－［TCP/IP］を選択します。

2. ［TCP/IP］の画面が表示されます。
［経由先］欄から［Ethernet］を選択し、［IPアドレス］欄に表示されてるIPアドレスが「192.168.1.x」になってることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

［TCP/IP］ウィンドウが表示されます。

※別のIPアドレスが表示された場合は、お使いのパソコンを再起動してください。
正しいIPアドレスが自動取得されます。

インターネットへの接続

本

**製品の設定は、Webブラウザから「設定ページ」を開いて行います。
初めてインターネットに接続するときは、「セットアップウィザード」を使用します。**

1 接続設定をおこなう前にご確認ください

■"フレッツ・ADSL"または"Bフレッツ"による接続では、どちらの場合もPPPoEプロトコルを使います。そのため、接続設定での操作方法は同じです。
設定を開始する前に、以下の項目をチェックしてください。

■プロバイダから通知された情報はお手元にありますか？
設定には、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

・接続ユーザ名
・接続パスワード
・DNSサーバのIPアドレス（プロバイダから通知された場合のみ）
・IPアドレス（固定IPアドレスの場合のみ）

※プロバイダによって、上記の呼び方が異なる場合があります。
　（例）接続ユーザ名　→ユーザID、アカウント、ユーザ名
　ご不明な場合はプロバイダにお問い合わせください

■フレッツ接続ツールを起動していませんか？
設定を行うパソコンで「フレッツ接続ツール」が起動していないことを確認してください起動しているときは、終了してください。

■本製品は"フレッツ・ADSL"または"Bフレッツ"以外のDHCPを利用した接続にも対応しています。

■固定IPアドレスで接続する場合は、以下の情報が必要です。

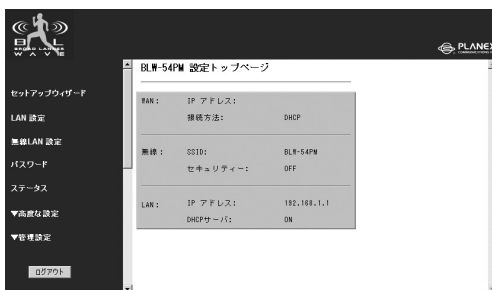
・IPアドレス
・サブネットマスク
・デフォルトゲートウェイのIPアドレス
・DNSサーバのIPアドレス

2 設定ページを開く

ここでは、本製品の設定ページを開くための方法について説明します。

1. 本製品につないだパソコンでWebブラウザを起動し、アドレスを入力する欄に「http://192.168.1.1/」と入力します。

2. 本製品にログオンするためのパスワード入力画面が表示されます。
工場出荷時のユーザ名は「admin」、パスワードは「００００」です。ユーザ名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

3. 本製品の設定画面が表示されます。

■インターネット接続方法の確認

●PPPoE接続

・PPPoE接続でIPアドレスを自動取得する場合 ……………… P.44
・PPPoE接続で固定IPアドレスを設定する場合 ……………… P.48
・PPPoE接続でマルチセッション接続を設定する場合 …… P.52
・PPPoE接続で複数固定IPアドレスで設定する場合 ……… P.55

●通常接続

・DHCPから自動取得する場合 …………………………………… P.60
・固定IPアドレスで設定する場合……………………………… P.62

3 PPPoE接続

■PPPoE接続でIPアドレスを自動取得する場合

1. メニューから「セットアップウィザード」をクリックします。

2. 「セットアップウィザード」の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3. 「接続方法」の画面が表示されます。
「PPPoE接続」を選択し、「次へ」をクリックします。

4. 「アカウント入力」の画面が表示されます

PPPoE接続の設定項目を入力します。

アカウント入力

PPPoE接続に使用するユーザ名とパスワードを入力してください。

ユーザ名: guest

パスワード:

接続方法: 自動接続/切断

自動切断: 15 分

＜戻る　次へ＞　キャンセル

「ユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoEユーザ名を入力します。
フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、@（アットマーク）以下も正確に入力してください。入力は半角文字で1～64文字になります。

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを入力します。入力は半角英数字で1～64文字になります。また、入力された値はセキュリティのために＊（アスタリスク）で表示されます。

注意

大文字や小文字は別の文字として扱われることや、数字の０（ゼロ）と英字のO（オー）の違いなどに注意してください。

「接続方法」
PPPoE接続時の接続方法を選択します。

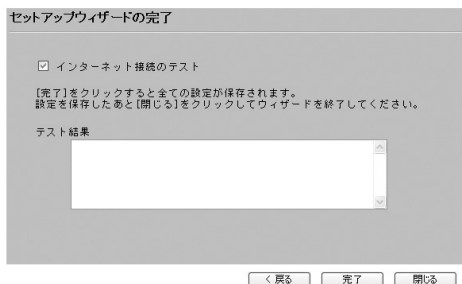
自動接続/切断：
LAN側ネットワークからインターネットへの通信が検出されたときに自動的にPPPoEアカウントへの接続を行い、LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合は、自動的に切断動作を行います。

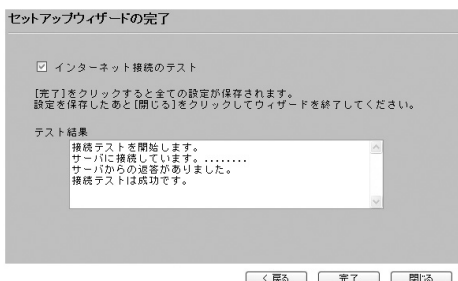
手動接続/手動切断：
PPPoEアカウントへの接続と切断を手動で行います。

セッションキープアライブ：
PPPoEセッションが何らかしらのアクシデントで切断された場合、一旦切断動作を行います。切断が完了後、接続動作を再開し常にPPPoEセッションを維持します。常にセッションを維持したい場合は、この機能を有効にしてください。また、「セッション・キーアライブ」が有効の場合は、「自動切断アイドルタイム」の機能は無効になります。

「自動切断」
LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合に、自動的に切断動作を行う時のアイドルタイムを入力します。

5. 「IPアドレス設定」の画面が表示されます。
「IPアドレス自動取得」を選択し、「次へ」をクリックします。

6. 「セットアップウィザードの完了」の画面が表示されます。
「インターネット接続のテスト」にチェックをつけ、「完了」をクリックします。

7. 「テスト結果」欄に接続テストの結果が表示されるのを確認し、「閉じる」をクリックします。

注意

PPPoE接続が成功しないときは、ユーザ名、パスワードなどの設定に間違いがないか確かめてください。

■PPPoE接続で固定IPアドレスを設定する場合

1. メニューから「セットアップウィザード」をクリックします。

2. 「セットアップウィザード」の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3. 「接続方法」の画面が表示されます。
「PPPoE接続」を選択し、「次へ」をクリックします。

4.「アカウント入力」の画面が表示されます。
PPPoE接続の設定項目を入力します。。

アカウント入力

PPPoE接続に使用するユーザ名とパスワードを入力してください。

ユーザ名: guest
パスワード:
接続方法: 自動接続/切断
自動切断: 15 分

< 戻る　次へ >　キャンセル

「ユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoEユーザ名を入力します。
フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、@（アットマーク）以下も正確に入力してください。入力は半角文字で1～64文字になります。

「パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを入力します。入力は半角英数字で1～64文字になります。また、入力された値はセキュリティのために*（アスタリスク）で表示されます。

注意

大文字や小文字は別の文字として扱われることや、数字の０（ゼロ）と英字のO（オー）の違いなどに注意してください。

「接続方法」
PPPoE接続時の接続方法を選択します。

自動接続/切断：
LAN側ネットワークからインターネットへの通信が検出されたときに自動的にPPPoEアカウントへの接続を行い、LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合は、自動的に切断動作を行います。

手動接続/手動切断：
PPPoEアカウントへの接続と切断を手動で行います。

セッションキープアライブ：
PPPoEセッションが何らかしらのアクシデントで切断された場合、一旦切断動作を行います。切断が完了後、接続動作を再開し常にPPPoEセッションを維持します。常にセッションを維持したい場合は、この機能を有効にしてください。また、「セッション・キーアライブ」が有効の場合は、「自動切断アイドルタイム」の機能は無効になります。

「自動切断」
LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合に、自動的に切断動作を行う時のアイドルタイムを入力します。

5.「IPアドレス設定」の画面が表示されます。
「固定IPアドレス設定」を選択し、「IPアドレスタイプ」欄から「標準」を選択します。
下記の項目を入力し、「次へ」をクリックします。

4
インターネットへの接続

「IPアドレス」
プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

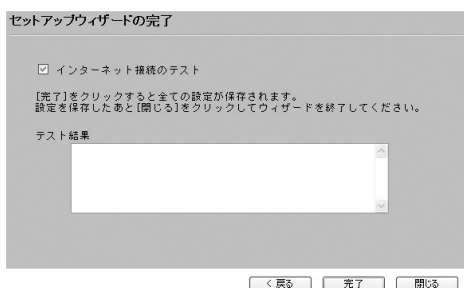
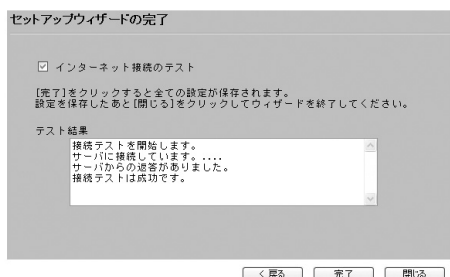
「サブネットマスク」
グローバルIPアドレスが1個のみ割り当てられるサービスをご利用の場合は、空欄のままでかまいません。

「DNSサーバアドレス」
プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。DNSアドレスの指定がない場合は空欄のままでかまいません。

6.「セットアップウィザードの完了」の画面が表示されます。
「インターネット接続のテスト」にチェックをつけ、「完了」をクリックします。

セットアップウィザードの完了
☑ インターネット接続のテスト
[完了]をクリックすると全ての設定が保存されます。
設定を保存したあと[閉じる]をクリックしてウィザードを終了してください。
テスト結果
< 戻る　完了　閉じる

7.「テスト結果」欄に接続テストの結果が表示されるのを確認し、「閉じる」をクリックします。

注意

PPPoE接続が成功しないときは、ユーザ名、パスワードなどの設定に間違いがないか確かめてください。

■PPPoE接続でマルチセッション接続を設定する場合

マルチセッション接続とは？
本製品は、同時に複数のPPPoE接続相手先との通信が可能なマルチセッション接続（セカンダリセッション）に 対応しています。これは1つのWANアクセス機器（ブロードバンドルータなど）が、複数のPPPoEアカウントを使って、それぞれ異なるネットワークに接続できる機能です。本製品は、最大2つのPPPoEセッションに同時接続することが出来ます。（PPPoE 2セッションサポート）

4

インターネットへの接続

マルチセッション接続設定方法

1. まず、PPPoE接続の設定をします。（PPPoE接続 P42～）

2. メニューバーの「高度な設定」、「インターネット接続設定」の、接続方法より「PPPoE」を選んでください。「PPPoEマルチセッション」を開きます。

3. 「有効」にチェックをいれます。PPPoEユーザ名、PPPoEパスワード欄にセカンダリセッション用のアカウントを入力し、「保存」を押します。
必要に応じてその他の項目を設定して下さい。
例はNTT東日本のフレッツスクウェアをご利用の際の入力例です。

PPPoEマルチセッション

PPPoEマルチセッション	☑ 有効
アカウント設定	ログインユーザ名: guest@flets ログインパスワード: ***** 接続方法: 自動 自動切断時間: 15 分
IPアドレス	◉ IPアドレス自動取得 ○ 固定IPアドレス設定
DNSサーバ	◉ サーバから自動取得する ○ DNSアドレス [ ].[ ].[ ].[ ]
	保存 キャンセル

4. セカンダリセッション接続ルールを設定します。接続先をIPアドレスで指定する場合は、「送信先アドレス」を選択して、接続先のアドレスとネットマスクを入力して下さい。接続先をURLで指定したいときは、「DNSクエリ」を選択して下さい。通常は、こちらの方が良く使われると思われます。DNSクエリの設定方法は 、表をご参照下さい。設定が完了したら「追加」を押した後「保存」を押して下さい。例は、NTT東日本のフレッツスクウェアをご利用の際の入力例です。

クエリの例	適合するアドレスの例
.com	abc.com
.abc.com	www.abc.com
abc.com	abc.comのみ
www.abc.com	www.abc.comのみ
.abc	www.abc

5. メニューバーの「ステータス」、WANの「詳細」よりPPPoEプライマリセッション接続状況、PPPoEセカンダリセッション接続状況の順で「接続」を押してください。

注意

PPPoE固定IPアドレス設定時、PPPoEアンナンバード接続時は使用できません。

4 インターネットへの接続

■PPPoE接続で複数固定IPアドレスで設定する場合

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち、最初（ネットワークアドレス）と最後（ブロードキャストアドレス）は、システムで予約されておりホスト（コンピュータやサーバ）には使用できません。また、本製品のWAN側ポートで使用するIPアドレスも必要になります。従って、ホストで自由に利用可能なIP アドレスは、（プロバイダから割り当てられたアドレス数－3 ）個になります。（プロバイダから8個のグローバルIP アドレスが割り当てられている場合は5個が利用可能）

例：プロバイダから153.16.10.40～153.16.10.47 （153.16.10.40/29 ）の8個のグローバルIP アドレスが割り当てられた場合

153.16.10.40 ネットワークアドレス（使用不可）
153.16.10.41 ルータ用（例：本製品WAN側ポート）
153.16.10.42 ホスト用（例：プライマリDNSサーバ）
153.16.10.43 ホスト用（例：WEB サーバ）
153.16.10.44 ホスト用（例：メールサーバ）
153.16.10.45 ホスト用（例：FTP サーバ）
153.16.10.46 ホスト用（例：その他サーバ）
153.16.10.47 ブロードキャストアドレス（使用不可）

この場合、ネットワークで使用可能なIPアドレス範囲は153.16.10.42～153.16.10.46になります。また、本製品のWAN 側ポートのIP アドレスには153.16.10.41 を固定設定してください。

1. メニューから「セットアップウィザード」をクリックします。

4 インターネットへの接続

2.「セットアップウィザード」の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3.「接続方法」の画面が表示されます。
「PPPoE接続」を選択し、「次へ」をクリックします。

4. 「アカウント入力」の画面が表示されます。
PPPoE接続の設定項目を入力します。

アカウント入力

PPPoE接続に使用するユーザ名とパスワードを入力してください。

ユーザ名： guest
パスワード：
接続方法： 自動接続/切断
自動切断： 15 分

＜戻る　次へ＞　キャンセル

「ユーザ名」
プロバイダから指定されたPPPoEユーザ名を入力します。
フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、@（アットマーク）以下も正確に入力してください。入力は半角文字で1～64文字になります。

「パスワード」
プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを入力します。入力は半角英数字で1～64文字になります。また、入力された値はセキュリティのために＊（アスタリスク）で表示されます。

注意

大文字や小文字は別の文字として扱われることや、数字の０（ゼロ）と英字のO（オー）の違いなどに注意してください。

「接続方法」
PPPoE接続時の接続方法を選択します。

自動接続/切断：
LAN側ネットワークからインターネットへの通信が検出されたときに自動的にPPPoEアカウントへの接続を行い、LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合は、自動的に切断動作を行います。

手動接続/手動切断：
PPPoEアカウントへの接続と切断を手動で行います。

セッションキープアライブ：
PPPoEセッションが何らかしらのアクシデントで切断された場合、一旦切断動作を行います。切断が完了後、接続動作を再開し常にPPPoEセッションを維持します。常にセッションを維持したい場合は、この機能を有効にしてください。また、「セッション・キーアライブ」が有効の場合は、「自動切断アイドルタイム」の機能は無効になります。

「自動切断」
LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合に、自動的に切断動作を行う時のアイドルタイムを入力します。

5. 「IPアドレス設定」の画面が表示されます。
「固定IPアドレス設定」を選択し、「IPアドレスタイプ」欄から「アンナンバード」または「アンナンバード+プライベート」を選択します。下記の項目を入力し、「次へ」をクリックします。

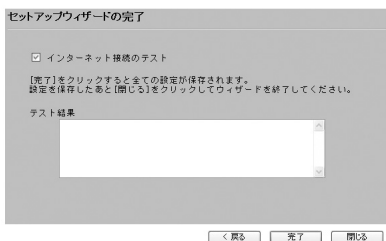
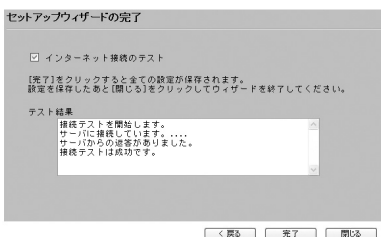
注意

「アンナンバード」を選択した場合はプライベートIPアドレスは使用できません。プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスを共存させたい時は「アンナンバー+プライベート」をお選びください。

「IPアドレス」
プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」
複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるサービスをご利用の場合は、プロバイダから割り当てられているサブネットマスクを入力します。

「DNSサーバアドレス」
プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。DNSアドレスの指定がない場合は空欄のままでかまいません。

6. 「セットアップウィザードの完了」の画面が表示されます。
「インターネット接続のテスト」にチェックをつけ、「完了」をクリックします。

7. 「テスト結果」欄に接続ラストの結果が表示されるのを確認し、「閉じる」をクリックします。

8. お使いのパソコンにグローバルIPアドレスを設定します。

本製品の複数固定IPアドレス機能を利用する場合、ネットワークに接続するホスト（パソコンやサーバ）のネットワーク設定は次のようになります。

IPアドレス：プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中で、さらに本製品のネットワーク範囲に設定したグローバルIPアドレス。
例：153.16.10.42

サブネットマスク：
プロバイダから指定されたサブネットマスク
例：255.255.255.240

デフォルトゲートウェイ：
割り当てられたIP アドレス範囲の2 番目のグローバルIP アドレス（本製品WAN側ポートに設定したグローバルIPアドレス）
例：153.16.10.41

4 通常接続

■DHCPから自動取得する場合

1. メニューから「セットアップウィザード」をクリックします。

2.「セットアップウィザード」の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3.「接続方法」の画面が表示されます。
「通常接続」を選択し、「次へ」をクリックします。

4.「通常接続」の画面が表示されます。
「IPアドレス自動取得」を選択し、「次へ」をクリックします。

5.「セットアップウィザードの完了」の画面が表示されます。
「インターネット接続のテスト」にチェックをつけ、「完了」をクリックします。

6.「テスト結果」欄に接続テストの結果が表示されるのを確認し、「閉じる」をクリックします。

■固定IPアドレスで設定する場合

1. メニューから「セットアップウィザード」をクリックします。

2. 「セットアップウィザード」の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3. 「接続方法」の画面が表示されます。
「通常接続」を選択し、「次へ」をクリックします。

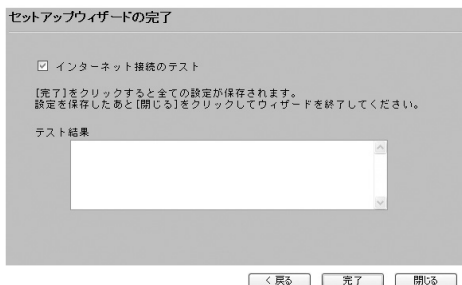
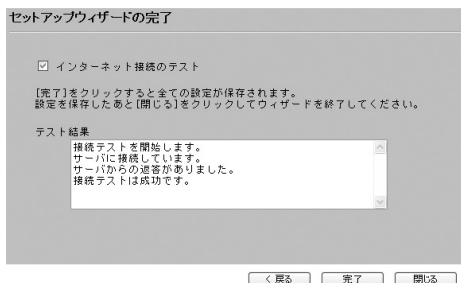
4.「通常接続」の画面が表示されます。
「固定IPアドレス設定」を選択し、下記の項目を入力します。

「IPアドレス」
プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」
プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「ゲートウェイ」
プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

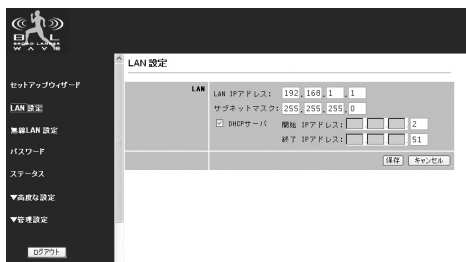
5.「DNS」欄から「固定」にチェックをつけ、プロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを入力します。

6. 「セットアップの完了」の画面が表示されます。
「インターネット接続のテスト」にチェックをつけ、「完了」をクリックします。

7. 「テスト結果」欄に接続テストの結果が表示されるのを確認し、「閉じる」をクリックします。

基本設定

こでは、本製品の基本的な設定について説明します。

1 LAN設定

ここでは、本製品のLAN側のネットワークを設定する場合の方法について説明します。本製品のLAN側IPアドレスの初期値は「192.168.1.1」になります。お使いのネットワーク環境に合わせてLAN側のIPアドレスを変更することができます。

メニューから「LAN設定」をクリックします。

「LAN IPアドレス」

LAN側ポートに設定するIPアドレスを入力します。デフォルトでは「192.168.1.1」に設定されています。

「サブネットマスク」

LAN側ポートのサブネットマスクです。デフォルトでは「255.255.255.0」に設定されています。

「DHCPサーバ」

DHCPサーバ機能を使うと、LAN側のコンピュータに自動的にIPアドレスが割り当てられます。DHCPサーバ機能を使うときはチェックをつけてください。DHCPサーバ機能を使わないときはチェックを外します。

「開始IPアドレス」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の開始アドレスを設定します。「.」（ドット）で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

「終了IPアドレス」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の終了アドレスを設定します。

設定が終了したら「保存」をクリックします。

2 パスワード

ここでは、本製品の設定画面にログインするためのパスワードの設定方法について説明します。本製品のご利用に際してはセキュリティ上、パスワードの変更を推奨します。

メニューから「パスワード」をクリックします。

「新しいパスワード」
新しいパスワードを入力します。

「パスワード確認」
確認のため新しいパスワードをもう一度入力します。

3 ステータス

ここでは、本製品のインターネットの接続状況、LAN側ポートの設定、システム情報の表示と、DHCPによるWAN側IPアドレスの開放/更新、PPPoE接続の手動接続/切断の操作ができます。

1. メニューから「ステータス」をクリックします。

2. 「インターネット」欄から「接続の詳細」をクリックすると、さらにWANポートの詳細なステータスが表示されます。

DHCP接続の詳細

「リリース/更新」ボタン
WAN側ポートの接続方法がDHCP接続のときにIPアドレスの解放/更新をします。

「接続」ボタン
WAN側ポートの接続方法がPPPoE接続のときにPPPoEの接続処理をします。

「切断」ボタン
WAN側ポートの接続方法がPPPoE接続のときにPPPoEの切断処理をします。

3. 「システム」欄から「システムデータ」をクリックすると、さらに詳細なシステム情報が表示されます。

システム データ

システム

デバイス名:	BLW-54PM000000
ファームウェアバージョン:	Version 1.0 Release 01
ハードウェア ID:	000000000000

LAN

MACアドレス:	0090ccXXXXXX
IP アドレス:	192.168.1.1
サブネットマスク:	255.255.255.0
DHCPサーバ:	有効
DHCP開始 IPアドレス:	192.168.1.2
DHCP終了 IPアドレス:	192.168.1.51

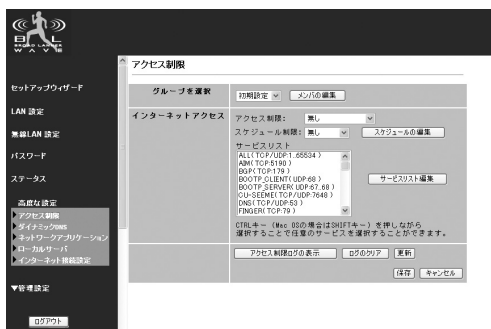
インターネット

接続方法:	Other - Modem - (DynamicIPアドレス
MACアドレス:	0090ccXXXXXX
IPアドレス:	
サブネットマスク:	
デフォルトゲートウェイ:	
DHCPクライアント:	
DNS IPアドレス:	

高度な設定

こでは、本製品の詳細な機能を設定する方法について説明します。

1 アクセス制限

本製品は、LAN側のパソコンにアクセス制限を設定することができます。
アクセス制限を行うパソコンは、「グループ」という単位で設定ができ、WEB参照やE-mailの使用などの特定のインターネットサービスを曜日や時間を指定して制限することが可能です。

●メンバ登録

アクセス制限は、制限を行うパソコンをグループに登録し、グループごとに設定します。グループには「グループ1」から「グループ4」と「初期設定」の5つがあります。「グループ1」から「グループ4」のどのグループにも登録されていないパソコンは、自動的に「初期設定」に登録されます。
また、グループのメンバを登録するにはLAN側のパソコンをPCデータベースに登録しておく必要があります。

1. 「グループ選択」欄からメンバの登録を行うグループを選択して、「メンバーの編集」をクリックします。

2. 「グループメンバ」の画面が表示されます。

「メンバPC」

グループに参加しているパソコンが表示されます。メンバから削除するには、削除するパソコンを選択して、「削除＞＞」をクリックします。

「他のPC」

グループに参加していないパソコンが表示されます。メンバに追加するには、追加するパソコンを選択して、「＜＜ 追加」をクリックします。

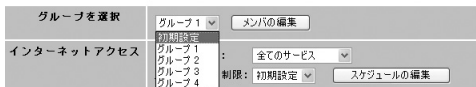
3. 「閉じる」をクリックします。

●スケジュールの設定

スケジュールの設定は曜日ごとに何時から何時までという形でアクセス制限する時間を入力します。各曜日2つまで時間を設定できます。時間は24時間表記で入力してください。1日中制限を行うときはその曜日の「セッション1」の欄に「00：00 - 24：00」と入力します。1日中制限を行わないときはその曜日のすべての欄を空欄にします。

1.「スケジュールの編集」をクリックします。

●アクセス制限の設定

1.「グループを選択」欄からアクセス制限を行うグループを選択します。

2.「アクセス制限」欄からアクセス制限するサービスを選択します。

「無し」
アクセス制限をしない場合選択します。

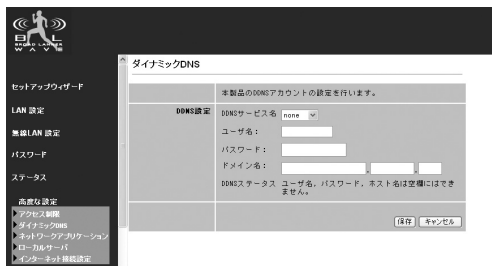
「全てのサービス」
全てのサービスの使用を制限する場合選択します。

「選択されたサービス」
特定のサービスの使用を制限する場合選択し、「サービスリスト」欄からアクセス制限を行うサービスを選択します。

3.「スケジュールによる制限」欄から「無し」または「初期設定」を選択します。
何曜日の何時から何時までのように、スケジュールを決めてサービスの使用を制限するときは「初期設定」を選択し、スケジュールを決めずに常にサービスの使用を制限するときは「無し」を選択します。

4.「保存」をクリックします。

2 ダイナミックDNS

本製品はwww.dyndns.orgとwww.dtdns.comにより提供されているDynamic DNSサービスに対応しています。登録してあるユーザ名、パスワード、ドメイン名の情報を本製品に設定しておくことにより、自動的に登録内容の更新をおこないます。

「DDNSサービス名」
本製品に設定するDynamic DNSサービスをwww.dyndns.orgまたはwww.dtdns.comから選択します。

「ユーザ名」
登録したユーザ名を入力します。

「パスワード」
登録したパスワードを入力します。

「ドメイン名」
登録したドメイン名を入力します。

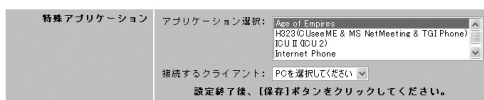
設定が終了したら「保存」をクリックします。

3 ネットワークアプリケーション

■特殊アプリケーション

ネットワークで使用するアプリケーションの中には、送信パケットと受信パケットでプロトコルとポート番号が異なるため、NAPT（IPマスカレード）環境では使用できないアプリケーションがあります。本製品の特殊アプリケーション機能を使用することで、あらかじめWAN側に特定のパケットがきたら、指定してあるLAN側のパソコンに転送することができます。

注意

特殊アプリケーション機能の設定をするには、あらかじめアプリケーションを使用するLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

「アプリケーション選択」

使用するアプリケーションを選択します。登録されていないアプリケーションを使用する場合は、「新規アプリケーションの作成」をクリックしてアプリケーションの追加を行います。

「接続するクライアント」

アプリケーションを使用するパソコンを右側のリストから選択します。使用するパソコンはあらかじめPCデータベースに登録しておいてください。

設定が終了したら「保存」をクリックします。

●新規アプリケーションの追加
新規アプリケーションの追加をおこなうには、「新規アプリケーション作成」をクリックします。

特殊アプリケーションの追加をおこなうにはアプリケーションで使用するプロトコルとポート番号を調べておく必要があります。特殊アプリケーションは6個まで登録できます。

特殊アプリケーションの追加

特殊アプリケーションは1ユーザのみの使用となります。

名称	受信パケット			送信パケット		
	プロトコル	開始ポート	終了ポート	プロトコル	開始ポート	終了ポート
1. □ dialpad	udp	51200	51201	udp	51200	51201
2. □ paltalk	udp	2090	2091	udp	2090	2091
3. □ quicktime	udp	6970	6999	tcp	554	554
4. □	udp			udp		
5. □	udp			udp		
6. □	udp			udp		
7. □	udp			udp		
8. □	udp			udp		
9. □	udp			udp		
10. □	udp			udp		
11. □	udp			udp		
12. □	tcp			udp		

保存　キャンセル　閉じる

「名称」
追加するアプリケーションのアプリケーション名を入力してください。有効にするときはアプリケーション名の前のチェックボックスをチェックします。

「受信パケット」
アプリケーションの受信パケットで使用する、「プロトコル」と「開始ポート」番号、「終了ポート」番号を入力します。

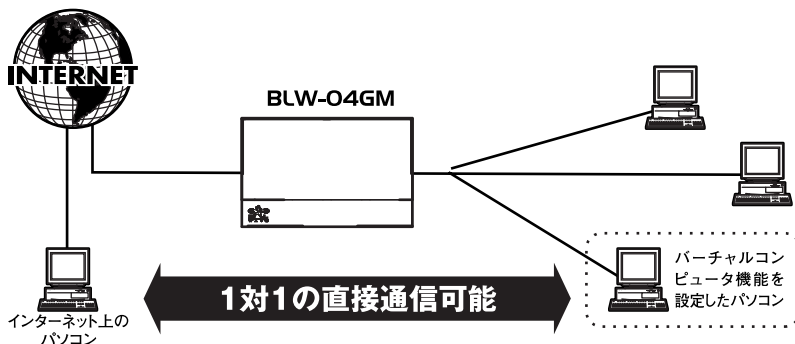
「送信パケット」
アプリケーションの送信パケットで使用する、「プロトコル」と「開始ポート」番号、「終了ポート」番号を入力します。

設定が終了したら「設定」をクリックします。

注意

ここで追加した特殊アプリケーションは、特殊アプリケーションリストには表示されません。また、アプリケーションを使用するコンピュータを指定する必要もありません。

■バーチャルコンピュータ

バーチャルコンピュータ機能とは、インターネットから本製品のWAN側に送られてくる宛先不明のパケットをあらかじめ設定してあるLAN側のホストへ転送する機能です。使用するポート情報等が公開されてなく、ローカルサーバの設定ができない場合などにご利用ください。

6-1バーチャルコンピュータ構成図

1. メニューから「ネットワークアプリケーション」をクリックします。
「バーチャルコンピュータ」欄から「有効」をチェックし、転送先のパソコンを右側のリストから選択します。バーチャルコンピュータ機能を使わないときはチェックを外します。

2.「保存」をクリックします。

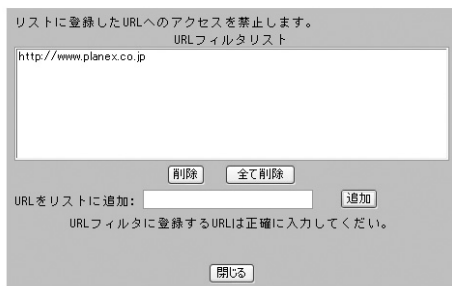
注意

バーチャルコンピュータ機能の設定をするには、あらかじめ本機能を使用するLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

■URLフィルタ

URLフィルタ機能とは、LAN側のパソコンからインターネットの特定のWEBサイトへのアクセスを制限することができます。

1. メニューから「ネットワークアプリケーション」をクリックします。
「URLフィルタ」欄から「URLフィルタを有効にする」にチェックします。

2. 「URLフィルタの編集」をクリックすると、「URLフィルタ」の画面が表示されます。

6
高度な設定

3. 「URLをリストに追加」欄にアクセスを制限したいWEBサイトのURLまたはIPアドレスを入力します。「追加」をクリックします。

4. 「閉じる」をクリックします。

4 ローカルサーバ

ローカルサーバ機能とは、WAN側からの特定のパケットをあらかじめ指定してあるLAN側のパソコンに転送する機能です。これにより、LAN側に設置してあるサービスやサーバをインターネットに公開し、インターネットからLAN側にアクセスすることができます。

注意

ローカルサーバ機能を使用する場合は、LAN側に設置してあるサービスやサーバで使用する、プロトコル/ポート番号の情報が必要になります。使用するプロトコル/ポート番号が分からない場合はバーチャルコンピュータ機能をご利用ください。

1. メニューから「ローカルサーバ」をクリックします。
「ローカルサーバ」の画面が表示されます。「ローカルサーバ有効」欄にチェックをつけます。

2. インターネットに公開したいサービスを「サーバ設定」欄から選択します。

3. 「ローカルサーバに使用するPC」欄からインターネット側からのアクセスを転送するLAN側のパソコンを選択します。

6 高度な設定

4.「選択したサーバを更新する」をクリックします。

ローカルサーバ機能の設定をするには、あらかじめ本機能を使用するLAN側のコンピュータをPCデータベースに登録しておく必要があります。

●新しいサーバの追加

「サーバ設定」一覧にローカルサーバで使用するサービスがない場合は、新規サービスを設定することができます。

1. メニューから「ローカルサーバ」をクリックします。
「ローカルサーバ」の画面が表示されます。「ローカルサーバ有効」欄にチェックをつけます。

2. 「ローカルサーバに使用するPC」欄からインターネット側からのアクセスを転送するLAN側のパソコンを選択します。

3. 「プロトコル」欄から使用するプロトコルを選択し、「LAN側ポート」と「WAN側ポート」に使用するポート番号を入力します。「サーバ」欄に任意のサーバ名を入力します。

4. 「新規サーバの追加」をクリックします。

6 高度な設定

5 インターネット接続設定

ここでは、各接続方法の詳細な設定をおこなうことができます。

インターネット接続設定

WANポート
ホスト名: BLW-04GMED0D9C
ドメイン名:
WAN MAC アドレス: 00c002ed0d9d
デフォルト　MACアドレス コピー

IPアドレス
IPアドレス自動取得
固定IPアドレス設定
IP アドレス 219.184.54.62
サブネットマスク 255.255.254.0
ゲートウェイアドレス 219.184.55.254
PPPoE接続:
サブネットマスクとゲートウェイアドレスを入力する必要はありません。
PPPoE アンナンバード IP接続:
ゲートウェイアドレスを入力する必要はありません。

DNSサーバ
サーバから自動取得する
DNSアドレス

ログイン方法
ログイン方法の選択: PPPoE
ログインユーザ名:
ログインパスワード:
接続方法: auto
自動切断時間: 15 分

保存　キャンセル

「ホスト名」
プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」
プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままでかまいません。

「WAN MACアドレス」
本製品の現在のWAN側ポートのMACアドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するパソコンのMACアドレスの登録が必要な場合があります。すでにPCのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。

「デフォルト」
本製品のWAN側ポートのMACアドレスを出荷時の設定に戻します。

「MACアドレスコピー」
本製品のWAN側ポートのMACアドレスに、現在設定するためにアクセスしているパソコンのMACアドレスをコピーします。

「IPアドレス自動取得」
IPアドレスを自動取得する場合に選択します。

「固定IPアドレス設定」
プロバイダから指定された「IPアドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」を入力します。

「サーバから自動取得する」
DNSサーバのアドレスを自動取得する場合に選択します。

「DNSアドレス」
プロバイダからDNSサーバのアドレスを指定されてる場合は入力します。

「ログイン方法の選択」
「直接接続」「PPPoE」「PPPoE-アンナンバードIP」から接続方式を選択します。

「ログインユーザ名」
プロバイダから指定されたPPPoE接続のユーザ名（アカウント名）を入力します。

「ログインパスワード」
プロバイダから指定されたPPPoE接続のパスワードを入力します。

「接続方法」
「自動」「手動」「キープアライブ」から接続方法を選択します。

「自動切断時間」
LAN側からインターネットへの通信が検出されなかった場合、自動的に切断をおこなうまでの時間です。

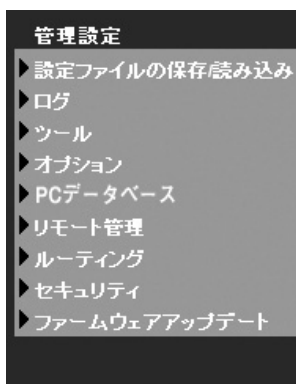
管理設定

こでは、本製品に設定した設定内容をパソコンなどにバックアップとして保存する場合の方法について説明します。

1 設定ファイルの保存/読み込み

ここでは、本製品に設定した設定内容をパソコンなどにバックアップとして保存する場合の方法について説明します。

■設定の保存

1. メニューから「管理設定」をクリックします。
サブメニューから「設定ファイルの保存/読み込み」をクリックします。

2.「設定ファイルの保存/読み込み」の画面が表示されます。
「保存」をクリックします。

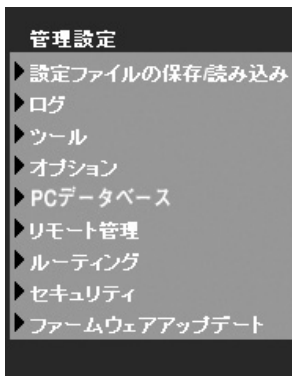
3.「ファイルのダウンロード」の画面が表示されます。
「保存」をクリックします。

4.「名前を付けて保存」の画面が表示されます。
「ファイル名」欄に任意の名前を入力し、「保存」をクリックします。

5.「ダウンロードの完了」の画面が表示されます。
「閉じる」をクリックします。

■設定ファイルの読み込み

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

2. サブメニューから「設定ファイルの保存/読み込み」をクリックします。

3.「設定ファイルの保存/読み込み」の画面が表示されます。
「参照」をクリックします。

4.「ファイルの選択」の画面が表示されます。
保存してある設定ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

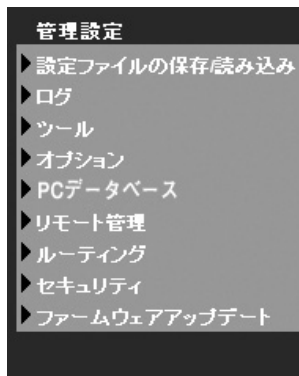
5.「読み込み」をクリックします。

7
管理設定

■**初期化**

ここでは、本製品の初期化を設定画面から行うことができます。

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

2. サブメニューから「設定ファイルの保存/読み込み」をクリックします。

3.「設定ファイルの保存/読み込み」の画面が表示されます。
「初期化」をクリックします。

設定ファイルの保存/読み込み

設定の保存	現在の設定をファイルにしてPCに保存します [保存]
設定ファイルの読み込み	保存したファイルを読み込んで設定を変更します [参照...] [読み込み]
初期化	工場出荷時の設定に戻します [初期化]
	[キャンセル]

4. 初期化の警告メッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。
本製品の再起動後、設定が初期化されます。

2 ログ

本製品はLAN側のパソコンからのインターネットアクセスやアクセス制限、DoS攻撃検出などの状況をログに記録することができます。また、記録したログはE-Mail送信することもできます。

■ログの保存

ここでは、本製品のログを記録する方法について説明します。

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

7
管理設定

2. サブメニューから「ログ」をクリックします。

3. 「ログ」の画面が表示されます。
「有効なログ」欄から記録するログを選択します。

「インターネット接続」

LAN側のパソコンからのインターネットへのアクセスを記録します。

「アクセス制限」

アクセス制限機能の動作状況を記録します。

「DoS攻撃検出」

DoS攻撃の検出を記録します。

「タイムゾーン設定」

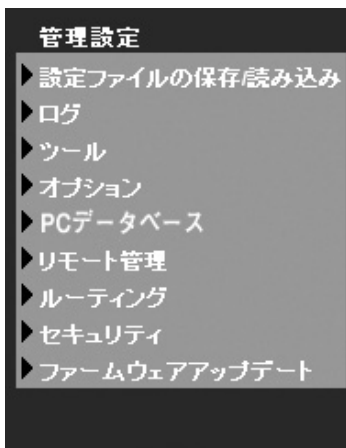
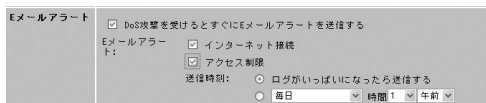
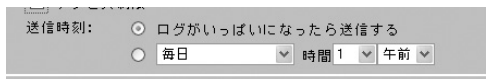
ログに時刻を記録するときに適用するタイムゾーンを選択します。日本の場合、「（GMT＋09：00）大阪、札幌、東京」を選択します

4. 「保存」をクリックします。

■ログの送信

本製品に記録したログをメールで送信する方法について説明します。
本製品はDoS攻撃検出時に自動的にメールを送信することができます。また、スケジュールを設定し、指定時間になったらあらかじめ設定してあるログを送信することもできます

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

2. サブメニューから「ログ」をクリックします。

3.「ログ」の画面が表示されます。
DoS攻撃検出時にメール送信する場合は、「DoS攻撃を受けるとすぐにEメールアラートを送信する」にチェックします。

7
管理設定

4. DoS攻撃検出以外のログについてメール送信する場合は、「Eメールアラート」欄の「インターネット接続」「アクセス制限」から送信するログを選択します。

5.「送信時刻」欄からログを送信する条件を選択します。

6. 下記の項目を入力します。

「Eメールアドレス」

送信先のメールアドレスを入力します。

「件名」

Eメール送信するときの件名を入力します。

「SMTPサーバ」

送信先のメールサーバのアドレスをホスト名またはIPアドレスで入力します。

「ポート番号」

メール送信で使用するポート番号を入力します。通常はデフォルトのままでかまいません。

7.「保存」をクリックします。

3 ツール

ここでは、本製品からPing送信をおこなったりDNS検索をおこなうことができます。

ツール

Pingテスト
Ping IPアドレス: 実行
Ping 結果

DNS検索
ドメイン名 / URL:
検索
DNS検索結果

クリア

「PingIPアドレス」

Pingを送信するIPアドレスを入力します。

「ドメイン名/URL」

DNS検索を行うドメインまたはURLを入力します。

4 オプション

「バックアップDNSサーバ」

本製品に設定してあるプライマリDNSサーバが使用できない場合に、DNSの問い合わせを行うバックアップ用のDNSサーバのIPアドレスを入力します。

「UPnP」

本製品でUPnP機能を有効にする場合は、「UPnPサービスを有効にする」にチェックをつけます。

「MTU」

本製品で使用するMTUの値を入力します。

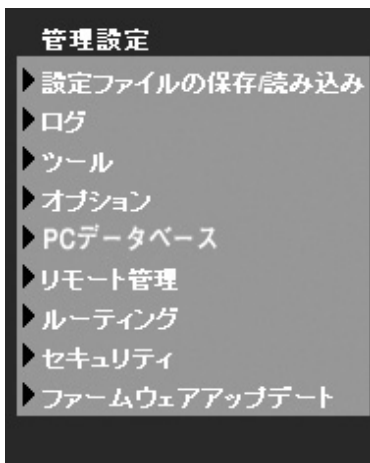
5 PCデータベース

本製品のLAN側ポートに接続されているパソコンのデータベース「PCデータベース」を作成します。PCデータベースは本製品の以下の機能で使用します。これらの機能を使用するときは、あらかじめPCデータベースの作成をおこなってください。

・DHCPサーバによる固定IPアドレスの割り当て
・ローカルサーバ機能
・バーチャルコンピュータ機能
・特殊アプリケーション機能
・アクセス制限機能

■PC接続リストの追加

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

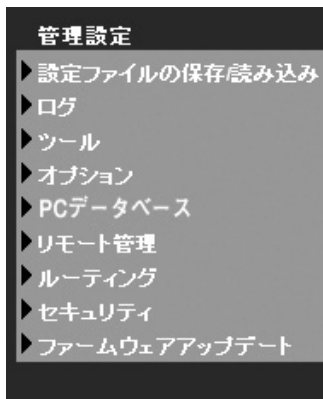
2. サブメニューから「PC接続リスト」をクリックします。

3.「PCデータベース」の画面が表示されます。
「名称」欄に登録するパソコンの名前を入力し、「IPアドレス」欄にパソコンのIPアドレスを入力します。

4.「追加」をクリックします。

■PCデータベースの削除

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

7
管理設定

2. サブメニューから「PCデータベース」をクリックします。

3. 「PCデータベース」の画面が表示されます。
「接続PCリスト」欄から削除するパソコンを選択し、「削除」をクリックします。

PCデータベース

DHCPクライアントは自動的に下のリストに表示されます。

表示されない場合は対象のPCを再起動してください。
クライアントPCが固定IPアドレスを使用している場合は手動でリストに追加してください。

接続PC リスト
test 192.168.1.100 (LAN) (予約済)

< 追加

名称： test2
IPアドレス： . . .200

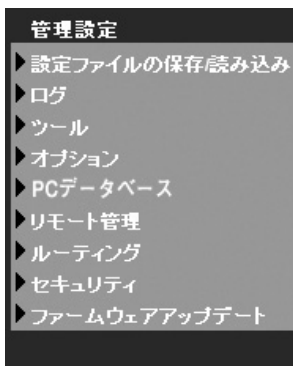
削除

更新　PCの一覧　PCの詳細設定

■PCデータベースの詳細設定

ここでは、既に設定してあるPCデータベースの編集や、DHCPサーバのいる固定IPアドレスの割り当てを行う方法について説明します。

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

2. サブメニューから「PCデータベース」をクリックします。

3. 「PCデータベース」の画面が表示されます。
「PCの詳細設定」をクリックします。

PCデータベース

4. 「PCの詳細設定」の画面が表示されます。

PCの詳細設定

リストの追加・編集・削除を行います。PCを追加する場合はMACアドレスが必要になります。
接続PCリスト
test 192.168.1.100 (LAN) 0050bf14ea01 (予約済)
編集 削除
PCのプロパティ
名称：
IPアドレス： 自動取得 (DHCPクライアント)
DHCPクライアント - 指定IPアドレス
固定 IPアドレス
MACアドレス： 自動検索 (PCがLANに接続されている場合)
MACアドレス
新規追加 選択したPCの更新 クリア
更新 PCの一覧 戻る

5. 「接続PCリスト」欄から修正するパソコンを選択し、「編集」をクリックします。

リストの追加・編集・削除を行います。PCを追加する場合はMACアドレスが必要になります。
接続PCリスト
test 192.168.1.100 (LAN) 0050bf14ea01 (予約済)
編集 削除

6. 「PCのプロパティ」欄に選択したパソコンの情報が表示されます。
修正を行う項目を変更します。

「名称」

パソコン名を入力します。

「IPアドレス」

IPアドレスの割り当て方法を選択します。
本製品のDHCPサーバ機能からIPアドレスを割り当てるときは「自動取得」を選択します。DHCPサーバ機能から固定のIPアドレスを割り当てるときは「IPアドレス予約」を選択して割り当てるIPアドレスを入力します。
DHCPサーバ機能を使用しないで固定のIPアドレスを設定しているときは「固定設定」を選択して固定設定するIPアドレスを入力します。

「MACアドレス」

コンピュータのMACアドレスを設定します。
MACアドレスを自動検索するときは「自動検索」を選択します。
MACアドレスを直接入力するときは「MACアドレス」選択して、パソコンのMACアドレスを入力します。

7.「新規追加」をクリックします。

8.「接続PCリスト」欄に追加したPCデータベースが表示されます。

6 リモート管理

ここでは、本製品のリモート管理に関する設定を行います。
本製品の設定をインターネット経由で設定する場合は、リモート管理機能を有効にし、ポート番号を入力します。

「リモート管理を有効にする」
チェックを付けると有効になります。

「ポート番号」
WAN側からアクセスする場合のポート番号を入力します。

7 管理設定

7 ルーティング

本製品はダイナミックルーティングプロトコルとしてRIP（Ver.1）に対応しています。
また、スタティックルーティングを追加することができます。

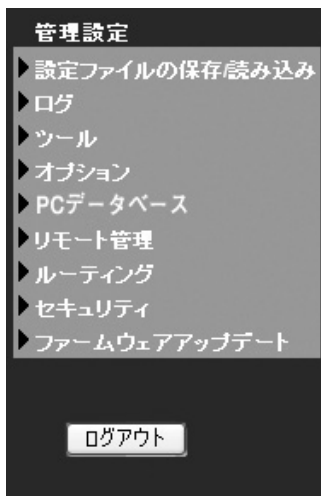
■ダイナミックルーティング

「RIPv1を有効にする」

チェックをつけるとRIP（Ver.1）が有効になります。RIPを有効にすると、ネットワーク上の他のRIP対応ルータとルーティング情報を交換し、ルーティングテーブルを自動的に更新します。

■スタティックルーティング

1. メニューから「管理設定」をクリックします。

2. サブメニューから「ルーティング」をクリックします。

3.「ルーティング」の画面が表示されます。
「プロパティ」欄に以下の項目を入力します。

「接続先IPアドレス」
パケットの送信先のネットワークアドレスを入力してください。

「サブネットマスク」
送信先ネットワークのサブネットマスクを入力してください。

「ゲートウェイIPアドレス」
送信先ネットワークへ到達するためのゲートウェイのIP アドレスを入力してください。

「メトリック」
送信先ネットワークまでのメトリック値を入力してください。

4.「追加」をクリックします。

5.「静的ルーティングテーブル」欄に追加したルーティング情報が表示されます。

7
管理設定

8 セキュリティ

本製品はSPI（ステートフル・パケット・インスペクション）方式のファイアウォール機能を搭載しています。インターネット側からの次の攻撃を検出し、これを遮断します。

「IP Spoofing」「Land Attack」 「Ping of Death」「Smurf Attack」「Sync Flooding」「SYN with data」「Full Xmas Scan」「Full Sapa Scan」「FIN Scan」「SYN FIN Scan」「Null Scan」「Vecna Scan」「TCP SYN RES SET」「Tear Drop」「Brute Force」

■ファイアウォール

「SPIファイアウォールを有効にする」

チェックを付けると、SPI機能が有効になります。

7 管理設定

■オプション

本製品はLAN-WAN間でVPNパケットをパススルーすることができます。パススルー可能なVPNプロトコルは、IPsec、PPTP、L2TP の3種類です。また、攻撃の前段階として攻撃対象を検出するために使われるPingに対して応答の許可/拒否を選択できます。

「WANインターフェイスのICMPに応答する」

チェックを付けると、WAN（インターネット）からのpingに応答します。セキュリティを高めるためにはチェックを外しておくことを推奨します。

「IPSecパススルーを有効にする」

チェックを付けると、IPsecプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。

「PPTPパススルーを有効にする」

チェックを付けると、PPTPプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。

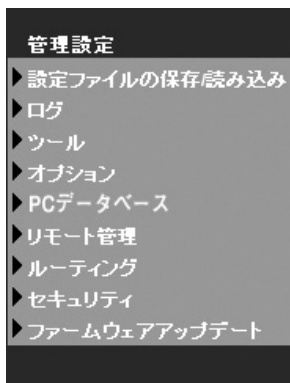
「L2PTパススルーを有効にする」

チェックを付けると、L2PTプロトコルを使用したVPNパケットのパススルー機能が有効になります。

9 ファームウェアアップデート

本製品はWEBブラウザからファームウェアのアップデートができます。

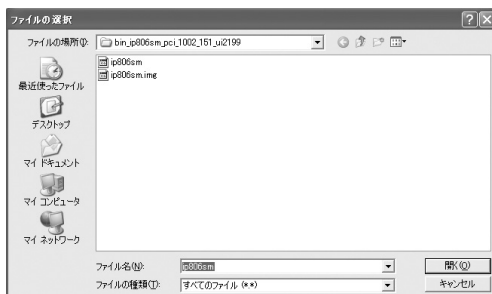
1. メニューから「管理者設定」をクリックします。

2. サブメニューから「ファームウェアアップデート」をクリックします。

3.「パスワード」欄に本製品のパスワードを入力し、「参照」をクリックします。
「ファイルの選択」の画面が表示されます。

4. 本製品のファームウェアを選択し、「開く」をクリックします。

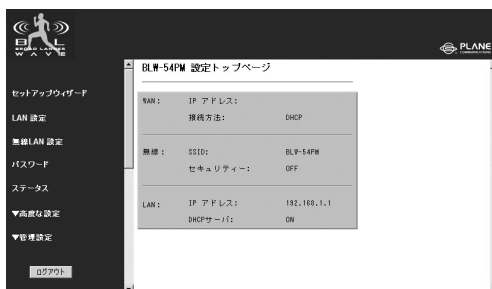
5.「アップデート」をクリックします。

7
管理設定

第8章

無線LAN設定

章では、無線LANの設定について説明します。

■無線設定

ここでは、本製品の基本的な無線LAN設定について説明します。

「SSID」

本製品などの無線アクセスポイントと無線ホストからなる無線ネットワークを、グループ化するための識別名です。通常は本製品に設定するSSIDと、すべての無線ホストに設定するSSIDを一致させてください。

「ネットワークモード」

利用する無線規格を選択します。本製品の無線アクセスポイント機能を利用するLAN側ホストに合わせて、適切な規格を選択してください。

802.11g＆11b：
本製品のLAN側ネットワーク上で、IEEE802.11g（54Mbps）の無線ホストとIEEE802.11b（11Mbps）の無線ホストが混在している場合に選択してください。

802.11gのみ：
本製品のLAN側ネットワーク上で、IEEE802.11g（54Mbps）の無線ホストを利用する場合に選択してください。

802.11bのみ：
本製品のLAN側ネットワーク上で、IEEE802.11b（11Mbps）の無線ホストを利用する場合に選択してください。

「チャンネル」
本製品で使用するチャンネルを選択します。

「SSIDを隠す」
通常、無線アクセスポイントは定期的に送信するビーコンにSSIDの情報を載せて送信しています。そのため、SSIDが一致する無線ホストとの接続以外にもSSIDが設定されていない無線ホストや、SSIDに「ANY」を設定した無線ホストからの接続（ANY接続）も許可してしまいます。
本製品はセキュリティを高めるために、本製品が定期的に送出するビーコンに、上記の＜SSID＞を含めないようにすることで、ビーコン受信によるSSIDの漏洩（第三者による無線アクセスポイントの探索）を防止することができます。

チェックを付けると、SSIDを隠します。第三者による無線アクセスポイント検索を防ぐ場合は、チェックをいれてください。

■セキュリティ設定

ここでは、本製品の無線LANにWEP設定をする方法について説明します。メニューから「無線LAN設定」をクリックし、「セキュリティ」をクリックします。

重要

無線LANのセキュリティは必ず設定してください。
セキュリティの無効は、無線LANの通信傍受、不正利用、なりすまし、情報漏洩、データの改ざん、システム破壊、インターネットへウイルス配布やDoS攻撃の踏み台などが行える非常に危険な状態となり、ネットワーク全体の安全性が損なわれる恐れがあります。
お客さまの利益を守るためにも、セキュリティは必ず設定してご利用ください。

工場出荷時は以下のセキュリティが有効の状態となっています。

セキュリティ方式	WEP
暗号方式	64bit
認証方式	Auto
WEPキー1	1223334444

「セキュリティ方式」

WEPを選択します。

「暗号方式」

WEPの暗号方式を設定します。

64bit：

64bit WEPを使用する場合に選択します。

128bit：

128bit WEPを使用する場合に選択します。

「認証方式」

WEP有効時に使用する認証方式を選択します。無線アクセスポイントと無線ホスト間で認証方式が違う場合は、認証に失敗します。通常は「Auto」を選択してください。無線ホストの認証方式に合わせて自動的に認証をおこないます。

Auto :
無線ホストの認証方式に合わせて自動的に認証をおこない通信します。

Open System :
WEPキーの有無にかかわらず認証をおこない通信します。

Shared Key :
WEPキーを利用し認証をおこないます。同じWEPキーを持ってる場合のみ通信ができます。

「キー１～キー4」

64bit WEP選択時は16進数で10桁、128bit WEP使用時は16進数で26桁のWEPキーを4つのWEPキー欄すべてに入力します。また、キー1～キー4に設定したWEPキーから、実際の通信で利用するWEPキーを1つ選択します。

「キー文字列」

WEPキーを任意の文字列から自動作成する場合は、「パスフレーズ」欄に入力し、「コード生成」をクリックします。入力された文字列をもとに自動的にWEPキーが16進数で作成され、選択したデフォルトキーのキー欄に表示されます。

「適用」

クリックすると、設定が適用されます。

■WPA-PSK 設定

本製品の無線LANには、WEP設定以外に WPA-PSK設定を用いることができます。

「共有キー」

8～63文字の範囲でパスフレーズを入力します。

「更新間隔」

0～65535秒の範囲で認証の更新間隔を設定します。

「保存」

クリックすると、設定が適用されます。

■無線LANアクセス制限

本製品は無線からLAN側、無線からWAN側への接続にアクセス制限を設定することができます。

●LANアクセス制限を設定する場合

1. 無線クライアントのアクセス制限を有効にする場合は、「無線LANアクセス制限を有効にする」にチェックを付けます。

☑無線LAN アクセス制限を有効にする
LAN アクセス制限:

2. LANアクセス制限の設定を選択します。

LAN アクセス制限:
◉ 全ての無線クライアントを許可する
○ 選択した無線クライアントのみを許可する　［クライアントの選択］

「全ての無線クライアントを許可する」

アクセス制限を行わず、全ての無線クライアントのLAN側への通信を許可します。

「選択した無線クライアントのみ許可する」

選択した無線クライアントのみLAN側への通信を許可します。

3.「選択した無線クライアントのみ許可する」を選択した場合は、通信を許可するクライアントの選択を設定します。「クライアントの選択」ボタンをクリックします。

注意

「全ての無線クライアントを許可する」を選択した場合は、クライアントの選択は必要ありません。

4.「無線アクセス制限-LAN」の画面が表示されます。
LAN側への通信を許可するクライアントを選択し、「保存」ボタンをクリックします。

5.「閉じる」ボタンをクリックします。

8

無線LAN設定

●WANアクセス制限を設定する場合

1. 無線クライアントのアクセス制限を有効にする場合は、「無線LANアクセス制限を有効にする」にチェックを付けます。

☑無線LAN アクセス制限を有効にする
LAN アクセス制限:

2. WANアクセス制限の設定を選択します。

WAN（インターネット） アクセス制限:
⊙ 全ての無線クライアントを許可する
○ 選択した無線クライアントのみを許可する [クライアントの選択]

「全ての無線クライアントを許可する」
アクセス制限を行わず、全ての無線クライアントのWAN側への通信を許可します。

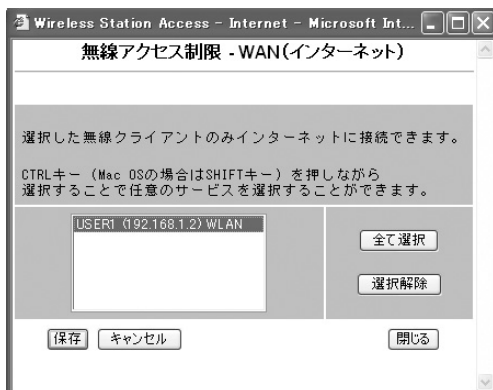
「選択した無線クライアントのみ許可する」
選択した無線クライアントのみWAN側への通信を許可します。

3. 「選択した無線クライアントのみ許可する」を選択した場合は、通信を許可するクライアントの選択を設定します。「クライアントの選択」ボタンをクリックします。

WAN（インターネット） アクセス制限:
○ 全ての無線クライアントを許可する
⊙ 選択した無線クライアントのみを許可する [クライアントの選択]

注意

「全ての無線クライアントを許可する」を選択した場合は、クライアントの選択は必要ありません。

4.「無線アクセス制限-WAN」の画面が表示されます。
WAN側への通信を許可するクライアントを選択し、「保存」ボタンをクリックします。

5.「閉じる」ボタンをクリックします。

ネットワークQ&A

1 ブロードバンドルータの色々な「?」について

インターネットの急速な普及により、ブロードバンドルータ(以下、ＢＢルータ)を使用する場面が増えてきました。特に多く寄せられる、LAN全般や弊社製品を使用する際にぶつかる疑問点についていくつかまとめてみました。
ネットワークはよく解らない…という方は是非ご一読ください。弊社製品に対する理解を深められることでしょう。

Q BBルータの設定は接続するコンピュータに対して全部で行うのですか?

A　いいえ

複数台接続している環境であっても、いずれか1台のコンピュータからBBルータの設定を行うだけで完了します。

補足

設定作業を行った1台でBBルータを介してインターネットにアクセスできるようになっていれば、その時点でBBルータの設定は完了したことになります。他のコンピュータから同じように設定を行う必要はありません。
例えば、2台のコンピュータのうち、1台はインターネットにアクセスできるが、もう1台はアクセスできないという場合は、BBルータではなくコンピュータ側に問題があることが考えられます。

Q インターネットに接続できないのに、どうやって設定画面にアクセスするんですか?

A インターネットへの接続と関係なく設定画面にアクセスできます。

設定画面はBBルータの中にあります。BBルータの中に設定用のホームページが存在しアクセスすることで、BBルータの設定を行っているのです。
ですから、BBルータがインターネット(モデム)につながっていなくてもコンピュータは設定画面にアクセスすることができるのです。

Q「ブラウザ」ってなんですか？

A インターネット上のホームページ等を見るためのソフトです。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープ」等が代表的なソフトになります。

補足

BBルータのマニュアルでは「インターネットエクスプローラ」の画面が使われているので「ネットスケープではどうやって設定するんですか？」という質問も寄せられますが、例えば「yahoo」のホームページが「インターネットエクスプローラ」でも「ネットスケープ」でも見ることができるように、BBルータの設定画面も問題なく「ネットスケープ」で表示することができます。

Q IPアドレスってなんですか？

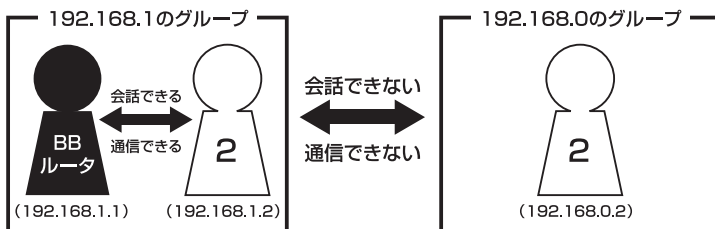
A TCP/IPプロトコルを使ったネットワークにおいて、コンピュータごとに割り当てられる個別の数字のことを言います。

数字がちょっと変わるだけでアクセスできなくなったりする厄介なイメージがあると思いますが、簡単に考えるなら「学校のクラスと出席番号」に置き換えて考えると判り易いかと思います。

例えばA君とB君とC君がいて、A君とB君は「1-1」組でC君が「1-2」組の場合、A君とB君は同じ教室なのでいつでも話をすることができますが、C君は教室が別なのでA君達とは会えません。IPアドレスもほとんどそれと同じような理屈になっています。

実際のIPアドレスで例えるなら、BBルータのIPアドレスは出荷時には「192.168.1.1」というIPアドレスが設定されています。これは、BBルータ君は「192.168.1」組の出席番号「1」番という意味になります。このBBルータ君と話をするにはコンピュータも「192.168.1」組に入らないと教室が別になるので話ができません。

BBルータにアクセスするコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.2」であれば「192.168.1」組の出席番号「2」番になるので、そのコンピュータはBBルータ君と話をすることができます。
もしコンピュータのIPアドレスが「192.168.0.2」だと、そのコンピュータは「192.168.0」組になるためBBルータ君とは教室が別になり、BBルータ君と話をすることができません。

つまり、BBルータにアクセスするにはコンピュータのIPアドレスが「192.168.1.**」という数字でなくてはならないのです。

上記の説明で「出席番号が同じになるとどうなるの？」という疑問を持った方もいると思います。
もし同じ出席番号の人が同じ教室に2人いたら混乱しますね？ ネットワークもそれと同じで、IPアドレスは重複してはいけないようになっています。
同じ番号のコンピュータが存在した場合、「その番号を使っている人が他にいますよ」という内容の警告メッセージがコンピュータ上に表示されます。

ここまで読んでいただいた方はもうお判りだと思いますが、IPアドレス「AA.BB.CC.DD」の3つ目（CC）までがネットワークのグループを表していて、最後の数字（DD）がコンピュータごとに設定される個別の数字ということになります。

補足

厳密にはもっと色々なルールがあるのですが、BBルータの設定画面にアクセスするには少なくとも上記レベルのルールが判っていれば、トラブルに遭った時の対処や問題の切り分けに役立つと思います。

2 設定画面

ここではBBルータの設定画面にうまくアクセスできない場合の主な確認点及び確認方法をまとめました。ご利用のコンピュータに該当する項目がないかチェックしてください。

Q 設定画面にアクセスできないのですが?

A LANランプ、IPアドレス、プロキシ、セキュリティソフトそれぞれの項目が正しく設定されていないとアクセスできません。もう一度設定を確認してみてください。
また、BBルータとの通信が正常に行われていない可能性もあります。これはpingというコマンドを使って確認することができます。

LANランプ

LANランプは点灯していますか?

コンピュータが接続されて正常に通信ができる状態になると「LINK」と言われるランプが点灯します。
BBルータには「LAN」「Link/Act」「LAN LINK」等の名称で呼ばれるランプがついていますので、そのランプが点灯しているか確認してください。(詳しくはマニュアル第1章 4の「各部の名称」をご覧ください)。

・点灯しない場合
ランプが点灯していない場合、BBルータとコンピュータは通信できる状態になっていませんので、設定画面にもアクセスできません。
いくつか原因は考えられますが、まずはケーブルを交換してみてください。
正常にランプが点灯しているポートで使用中の、他のケーブルを使って接続してみてください。
ケーブル交換の後、正常にランプが点灯するようであれば、交換前に使用していたケーブルに問題がある(断線やクロスケーブルなど)ということになります。

IPアドレス

IPアドレスが正しく取得できていますか?

アクセスできない場合は、取得しているIPアドレスを確認してください。
BBルータには「192.168.1.1」というIPアドレスが出荷時に設定されており、BBルータにアクセスするにはコンピュータが「192.168.1.**」というIPアドレスを取得している必要があります(最後の「**」には任意の数字が入ります)。
異なるIPアドレス(210.119.**.**等)を取得している場合はBBルータの設定画面にはアクセスできません。

・確認方法
主なOSでの確認方法は以下のようになりますので、取得しているIPアドレスの確認を行ってください。

Windows® 95/98/MEの場合：
1.「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。

2.「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更してください。

3.「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください(**には任意の数字が入ります)。

Windows® 2000/XPの場合：
1.「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。

2.キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG」と入力し、Enterキーを押してください。

3.「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください(**には任意の数字が入ります)。

Macintosh® の場合：
1.アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」を開いてください。

2.「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されることをご確認ください(**には任意の数字が入ります)。

・まったく違うIPアドレスを取得している場合（Windows® のみ）
確認したIPアドレスが「192.168.1.**」ではなく、まったく違うIPアドレスを取得している場合、以下の方法で取得しているIPアドレスを開放して、再度IPアドレスを取得しなおすことができます。

Windows® 95/98/MEの場合：
1.「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択、「名前」→「WINIPCFG」と入力→「OK」をクリックしてください。

2.「IP設定」というウインドウが開きますので「アダプタアドレス」の上をご使用のLANカードに変更→「すべて開放」をクリックしてください。

3.「IPアドレス」が「0.0.0.0」になったのを確認してから「すべて書き換え」をクリックしてください。

4.「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば正しく取得できたことになります（**には任意の数字が入ります）。

Windows® 2000/XPの場合：
1.「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」を開き、「コマンドプロンプト」を選択してください。

2.キーの入力待ちになりましたら「IPCONFIG /RELEASE」と入力し、＜Enter＞キーを押してください。

3.「RENEW」と入力し、＜Enter＞キーを押してください。

4.「IPCONFIG」と入力し、＜Enter＞キーを押してください。

5.「IPアドレス」に「192.168.1.**」という数字が表示されていれば、正しく取得できたことになります（**には任意の数字が入ります）。

ping

BBルータと正常に通信していますか？

・接続確認方法（Windows® のみ）
BBルータと通信できているかどうかは「ping」というコマンドで確認することができます。

Windows® 95/98/98SEの場合：
1.「スタート」→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウインドウが開きます。

2.ウインドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。

3.「Pinging 192.168.1.1 with・・・」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。
「Reply from　192.168.1.1・・・」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows® MEの場合：
1.「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」を選択、「MS-DOSプロンプト」のウインドウが開きます。

2.ウインドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。

3.「Pinging 192.168.1.1 with・・・」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from　192.168.1.1・・・」というメッセージが返ってきていれば正常です。

Windows® 2000/XPの場合：
1.「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を選択、「コマンドプロンプト」のウインドウが開きます。

2.ウインドウが開くとカーソルが点滅してコマンドの入力待ちになりますので「ping 192.168.1.1」と入力して、最後にEnterキーを押してください。

3.「Pinging 192.168.1.1 with・・・」というメッセージに続いて、その後連続4回同じメッセージが表示されると思います。「Reply from　192.168.1.1・・・」というメッセージが返ってきていれば正常です。

・応答が「Request Timed Out」になる

「ping 192.168.1.1」と実行した時「Request Timed Out」と表示される場合は、IPアドレスが正しく取得できていないか、コンピュータのLANアダプタが正常に動作していない可能性が考えられます。

1. IPアドレスが正しく取得できているか確認してください。「IPアドレスが正しく取得できているか」に確認方法が記載されています。

2. LANアダプタが正常に動作しているか確認してください。確認方法はモデムに直接接続してインターネットにアクセスできれば正常です。

ブラウザのプロキシ（PROXY）設定

不要な設定をしていませんか？

ブラウザのプロキシになんらかの設定が行われていると、アドレスに指定された所に接続する前に、プロキシで設定した所に接続しようとしてしまうため、設定画面にアクセスできない場合があります。その場合は以下のような手順でプロキシの設定を解除してください。

インターネットエクスプローラの場合（5.0以降）：
1.メニューの「ツール」→「インターネットオプション」を選んでください。

2.「接続」タブをクリック→「LANの設定」をクリックしてください。

3.「自動設定」と「プロキシサーバ」のチェックボックスでチェックされている項目がありましたら、全ての項目のチェックを外してください。

4.「OK」をクリック→「ローカルエリアネットワークの設定」ウインドウを閉じてください。

5.再度「OK」をクリック→「インターネットオプション」ウインドウを閉じてください。

6.一度インターネットエクスプローラを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

ネットスケープの場合：

1.メニューの「編集」→「設定」を選択してください。

2.「詳細」→「プロキシ」を選択、「インターネットに直接接続する」をチェックしてください。

3.「OK」をクリック→ウインドウを閉じてください。

4.一度ネットスケープを終了させてから再度起動し、再度BBルータの設定画面にアクセスできるか試してください。

セキュリティ関連ソフトの影響

ウイルスバスターやノートンアンチウイルス等、最近のウイルスチェックソフトには簡易ファイヤウォールという機能を搭載した物が増えています。

ファイヤウォールはアクセス許可をしていないIPアドレスからのパケット(通信)を遮断したりする機能です。

有効になっていると稀にBBルータとの接続時にファイヤウォール機能が働いて設定画面がうまく表示されない事や、設定内容を保存するとエラーになること等があります。
ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティソフトをご使用になられている場合は、それらのソフトを停止させてみてください。停止方法が判らない場合は、各ソフトウエアのマニュアルをご覧ください。

3 インターネットにアクセスできない

ここではBBルータの設定を行ってもインターネットへのアクセスができない場合の、主な確認点及び確認方法をまとめました。
接続方法別にまとめてありますので該当する項目がないかチェックしてください。
設定画面にアクセスができない場合は、130ページ「設定画面にアクセスできないのですが？」をご覧ください。

共通項目　事前確認編

どの接続方法にも共通する、最初に確認すべき点です。

Q 設定画面ではすべて正しく設定できたのですが、なぜインターネットにアクセスできないのでしょうか？

A BBルータが正しく接続されていないと通信が行われないので、インターネットにはアクセスできません。以下を確認してください。

WANランプ

WANランプは点灯していますか？

BBルータとモデムを接続して正常に通信ができる状態になると、BBルータの「WAN」のランプが点灯します。

・点灯しない場合

「WAN」のランプが点灯しない場合は、モデムと正常に接続していないことを表しますので、その状態ではインターネットに接続することができません。

本製品は「Auto-MDI/MDI-X」に対応しているので、ケーブルの種類（ストレート/クロス）の違いは関係なくなります。
ポートにケーブルのコネクタが正しく挿さっているか再度確認してください。
それでも、点灯しない場合は使用しているLANケーブルを変えてみる必要があります。

接続設定フレッツ編

ここではNTT提供のフレッツ・ADSL、Bフレッツ等のようなフレッツ接続ツールを利用してインターネットにアクセスする場合の、インターネット接続に関する主な確認点をまとめました。
接続ツール等を使わない場合は141ページ「接続設定ケーブルTV、Yahoo!BB編」をご覧ください。

Q インターネットへの接続や切断はどうするの？

A BBルータが回線の状態を検知し、自動的に接続・切断を行います。

NTT「フレッツ」を利用されているほとんどの方が、NTTのフレッツ接続ツールを使ってインターネットに接続し、アクセスをやめる時は切断処理をしていたと思いますが、「BBルータを使う場合はどうやって接続するの？」という疑問をもたれる方もいると思います。

BBルータ使用の場合、コンピュータがインターネットへ接続しようとすると、そのコンピュータはBBルータに接続のための信号を送信します。
BBルータはその信号を受信すると、回線が切断状態の時には自動的に接続を開始します。そして、一定時間インターネットへの接続が発生しない場合、自動的に切断を行うようになっています。

つまり、ユーザーは接続や切断を意識することなく、インターネットへアクセスできるのです。

注意

上記の動作は出荷時の設定で使用した場合になります。設定内容によっては上記のような動作にならない場合もありますのでご注意ください。

Q 今までフレッツ接続ツールを使っていたのですが、BBルータを設置した場合にインターネット接続する時の確認点はなんですか?

A ユーザID、パスワード、PPPoE設定・接続、接続ツールなどです。

ユーザID、パスワード

ユーザIDとパスワードに間違いはないですか？

フレッツ接続の場合、接続のためにユーザーID（ログインID）とパスワード（ログインパスワード）をBBルータに設定しますが、その入力を間違えると正常に接続できません。
入力ミスは意外と多く、再度入力し直すと接続できることが度々ありますので、入力した内容に間違いがないか、今一度確認してください。
「1（いち）」⇔「l（エル）」、「0（ゼロ）」⇔「O（オー）」の間違いなど。

フレッツの場合は「@」以降の入力が必須です

フレッツ・ADSLやBフレッツの場合は、ユーザID（ログインID）やパスワード（ログインパスワード）の入力が必須です。
特に注意すべき点として、ユーザIDの設定ではご利用になるプロバイダごとに、ユーザIDの後ろに「@****.ne.jp」というような設定入力が必要です。

プロバイダからの接続資料にはユーザIDの表記で「@」以降の部分が記載されていない場合もあります。
その場合はNTTからのフレッツ接続資料の中に、プロバイダ別のドメイン名リストがありますので、そちらで「@」以降の表記をご確認ください。

PPPoE設定

PPPoE接続の結果を確認してください。

BBルータにより確認方法が異なってくるため詳細は割愛しますが、PPPoEの接続設定の後には接続確認が大抵の場合行われます。
「接続診断」という機能を持ったBBルータの場合は、その機能を使って接続結果が良好かどうかを確認してください。
設定の最後で自動的に接続し、その結果を画面上に表示するタイプのBBルータの場合、接続に成功したというメッセージが表示されるか確認してください。

・接続テストの結果、接続できなかったという場合

「PADI-TIMEOUT」や「サーバからの応答 NG」等になる時は、PPPoE設定の「ユーザID」の設定が正しくても接続できないことがあります。
その場合、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態で30〜60分ほどそのままにしておいてください。
30〜60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

フレッツ接続ツール

フレッツ接続ツールは使いません

BBルータを使用する場合は本編冒頭の「インターネットへの接続や切断はどうするの？」にも書きましたように、フレッツ接続ツールは使用しません。
もし現在、BBルータの設定後にフレッツ接続ツールを起動してインターネットへの接続をしている場合は、フレッツ接続ツールは使用せずにブラウザを起動して、インターネットに接続できるか確認してください。
正しく接続設定が行われていれば,フレッツ接続ツールを使用しないで接続できます。

・PPPoE接続だけど接続ツールを使わない場合の設定は？

　ADSL回線でPPPoE接続だが、モデムにコンピュータを接続してインターネットにアクセスする際、接続ツール等を使用しないという場合は、ご利用のモデムにBBルータ機能がついている可能性が考えられます。その場合は「PPPoE接続」ではありませんので、「ルータ機能付きモデムをご利用の場合」を参考に設定を行ってください。

ルータ機能付きモデムをご利用の場合

プロバイダから提供されているモデムにルータ機能がついている場合があります。そのような場合、複数のコンピュータで利用するときは、ハブがあればアクセスできるため本来BBルータは必要ありません。
しかし、どうしてもBBルータを使用したいという場合は、BBルータのIPアドレスを変更することで利用可能になります。
*　BBルータのIPアドレスは本冊子の冒頭でも触れているように「192.168.1.1」になります。もし、ご利用のモデムも同じく「192.168.1.1」というIPアドレスを持っていて、しかも設定画面にアクセスした時にモデムの設定が行えるようだと、BBルータのWAN側とLAN側が同じようなアドレス（192.168.1.**）になってしまい、BBルータが混乱して正常な動作ができなくなります。*
*　ハブではなくBBルータを使用したい場合はBBルータのLAN側のIPアドレスを、「192.168.2.**」等のようにWAN側のIPとは別のアドレスに変更すれば、接続できるようになります。*

接続設定ケーブルTV、Yahoo!® BB編

Q ケーブルTVインターネットやYahoo!® BBを利用した場合に、インターネット接続する時の確認点はなんですか?

A IPアドレスの取得、ケーブルTVインターネットの場合はケーブルの接続方法にもご注意ください。

IPアドレスの取得

・ケーブルTVやYahoo!® BBをご利用の場合
ケーブルTVやYahoo!® BBを利用する場合は「通常接続(DHCP接続)」という方式で接続を行います。
各BBルータのマニュアルをご覧いただくと判るかと思いますが、この場合設定らしい設定はほとんど必要ありません。
インターネットに接続するには、BBルータがプロバイダからIPアドレスを取得しなければいけませんので、BBルータのWAN側ポートにIPアドレスが表示されているか確認してください。
確認方法はBBルータによって画面が異なりますので詳細は割愛しますが、「ステータス表示」や「アカウント管理」の画面で確認することができます。

ケーブルの接続
・WAN側ポートにIPアドレスが割り当てられない時
ケーブルTV等を利用したPPPoE以外のインターネット接続方法の場合、BBルータを接続する前まではコンピュータをモデムに接続して利用していることが多いと思います。
ケーブルをモデムから外してそのままBBルータに接続してしまうと、本来BBルータに割り当てられるはずのIPアドレスをコンピュータが持ったままになってしまい、BBルータがモデムからIPアドレスを正しく取得できないことがあります。
その場合はコンピュータを再度モデムに接続しなおしていただき、一度コンピュータを終了させる処理を行ってください。
モデム接続後にコンピュータを終了させれば、通常は取得したIPアドレスは開放されます。コンピュータの電源が切れたらモデムとBBルータを接続し、モデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

・それでも接続できない場合

モデムにコンピュータを接続した後、一旦終了させてからモデムとBBルータを接続し、電源を入れなおしてもインターネットに接続できない場合は、モデム・BBルータ・コンピュータの電源をそれぞれ切り、電源を切ったままの状態で60分ほどそのままにしておいてください。

 モデムを含めた全ての機器の電源を長時間切ることによって、プロバイダ側のサーバが記憶している情報が削除されて、初めて接続した時のような状態で接続することができます。60分ほど経過しましたらモデム→BBルータ→コンピュータの順番に電源を入れてください。

共通項目　最終確認編

どの接続方法にも共通する、最後に確認すべき点です。

Q 事前確認、接続設定と確認して問題がなかったのですが、それでもアクセスできません。ほかに確認点はありますか?

A コンピュータのIPアドレスが自動取得である事と、DNSサーバアドレスの設定を再確認してください。

自動取得

コンピュータのIPアドレスは自動取得になっていますか?

コンピュータのIPアドレスを手動で設定する場合、正しく設定されていないと設定画面にはアクセスできてもインターネットにアクセスできないことがあります。
手動設定の場合の注意点は次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は?」を参照していただき、コンピュータのIPアドレスが正しく自動取得になっているか、マニュアルを再度確認してください。

DNSサーバアドレス

IPアドレスでホームページにアクセスしてみてください。

ブラウザのアドレスに「http://210.197.75.205」と入力してEnterキーを押していただき、弊社(プラネックス)のホームページが表示されるか確認してください。
「http://210.197.75.205」だとアクセスできて「http://www.planex.co.jp」だとアクセスできない場合は、DNSサーバアドレスが正しく設定できていない可能性が考えられます。
次ページ「IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は?」を参考に設定を行ってください。

4 その他　よくあるお問い合わせについて

ここでは、多数寄せられる質問について、いくつかまとめてみました。

Q IPアドレスを手動で設定する場合の注意点は？

A IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバアドレスが正しく設定されているか再確認してください。

IPアドレスの基本的なルールは冒頭の「IPアドレスってなんですか？」の中で触れていますが、設定画面にアクセスする場合に必要な最低限の説明だけなので、インターネットに接続する場合の設定については不十分になっています。手動でIPアドレスを設定する場合の注意点は以下のようになります。

IPアドレス：
IPアドレスの設定については128ページ「IPアドレスってなんですか？」をご覧ください。

サブネットマスク：
通常は「255.255.255.0」と指定してください。

デフォルトゲートウエイ：
（Mac® OSでは「ルータアドレス」と言います）
BBルータのIPアドレスが入ります。出荷時の設定は「192.168.1.1」になります。
ここが正しく設定されていないとインターネットには接続できません。

DNSサーバアドレス：
（Mac® OSでは「ネームサーバアドレス」と言います）
ご利用になっているプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。
BBルータによっては「デフォルトゲートウエイ」と同じIPアドレスで問題ない場合もありますが、判らない場合はプロバイダ指定のDNSサーバアドレスを設定するのが確実です。
ここが正しく設定されていないと「www.planex.co.jp」という名前（ドメイン名）でホームページにアクセスできなくなります。

Q BBルータに接続しているコンピュータ同士の通信ができません。

A pingを打って通信確認ができれば、BBルータの問題ではありません。OS側の設定の問題だと思われます。

インターネットへの接続は問題ないのに、コンピュータ同士のファイル共有等ができないという問い合わせも良く寄せられます。コンピュータ同士のLAN接続について、基本的にBBルータは関与しておりません。

BBルータの通信確認

コンピュータ同士が本当にアクセスできていないのか確認する方法として、130ページ「設定画面にアクセスできないのですが？」の中に、取得しているIPアドレスを確認する方法と、指定のIPアドレスにpingを打つ方法を紹介していますので、そちらを参考にそれぞれのコンピュータが取得しているIPアドレスを確認して、相手のコンピュータに対してpingを打ってみてください。
「Reply from・・・」が帰ってくればコンピュータ同士の接続は問題なくできていることになりますので、ファイル共有等ができないのはBBルータの問題ではなくOS側の設定の問題ということになります。

OS側の要因

pingの結果が「Request timed out」だったり、pingが通っても接続できない場合に考えられる一つの要因として、ファイヤウォールソフトの存在が挙げられます。
ウイルスチェックソフトやインターネットセキュリティのソフトには、簡易ファイヤウォール機能を有している物があります。
使用しているコンピュータにそれらのソフトをインストールしている場合、ファイヤウォールが有効になっていると、たとえ自宅の中の同じネットワーク上のコンピュータであっても、ファイヤウォールから見ると第三者がそのコンピュータにアクセスしているように映るため、アクセスされないように遮断してしまいます。

該当するようなソフトを利用されている場合は、それらのソフトを停止させた状態で再度pingコマンドを打ち、通信状態を確認してみてください。
停止させるとpingが通るような場合は、それらソフトのファイヤウォールに他のコンピュータのIPアドレスを設定し、信頼するコンピュータとして認識させることで、ファイヤウォールを有効にしながらファイル共有ができるようになります。

Q コンピュータの電源をOFFにしたのに、BBルータのLANのランプがついたままですが故障でしょうか？

A 故障ではありません。「Wake On Lan」機能によるものです。

最近のLANアダプタには「Wake On Lan（以下WOL）」という、他のコンピュータから電源をON/OFF操作するための機能がついている物が多くなっています。
「WOL」に対応したLANアダプタでその機能が有効になっている場合、電源ONの信号を受信できるように待機状態になっている必要があるため、コンピュータ自体の電源はOFFになっていても、LANアダプタはBBルータのハブとLINKした（LANのランプが点灯した）状態になります。つまりBBルータ側ではどうすることもできません。
消えるようにするには「WOL」の機能をOFFにする必要がありますので、ご使用のLANアダプタのメーカーか、あるいは標準でコンピュータに搭載されているLANアダプタの場合はコンピュータメーカーに機能を無効にする手順をお問い合わせください。

仕様

項目	説明
品名	無線 ブロードバンドルータ
型番	BLW−54PM
無線LAN	ARIBSTD-T66（2.4GHz帯）、IEEE802.11b（11/5.5/2/1/自動） IEEE802.11g（54/48/36/24/18/12/9/6/自動）、64bit/128bit WEP 無線LANアクセス制限、ステルスSSID
WAN側ポート	10BASE-T/100BASE-TX ×1（RJ-45）
LAN側ポート	10BASE-T/100BASE-TX ×4ポートスイッチ（RJ-45）、Auto-MDI/MDI-X
WAN接続方式	固定IPアドレス/DHCPクライアント/PPPoEクライアント（いずれか1つを選択）
PPPoEクライアント	最大同時2セッション（自動接続/手動接続/キープアライブ/自動切断/手動切断）
PPPoE アンナンバード接続	対応
DHCPサーバ	固定割り当て可能
NAPT	最大同時2000セッション
UPnP	Internet Gateway Device 1.0対応
VPNパススルー	PPTP、L2TP、IPsec
アクセス制限	方向（LAN→WAN）
ステートフル・パケット・インスペクション	対応
DoS攻撃検知	対応
ルーティング	スタティック、ダイナミック(RIPv1)
ダイナミックDNS	DynDNS.org/dtdns.comから選択可能
ログ	ログメール、WWWブラウザ表示
設定方法/推奨ブラウザ	WWWブラウザ/Internet Explorer5.0以降、Netscape Navigator6.1以降
外形寸法	34（W）×157（H）×105（D）mm（アンテナ部除く）
重量	230g（アンテナ部含む）
消費電力	最大5.5W

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

http://www.planex.co.jp/user/

弊社へのお問い合わせ

■弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPLANEX Directまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

〈PLANEX Direct〉
http://direct.planex.co.jp/

■製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

〈ご質問/お見積もりフォーム〉
http://www.planex.co.jp/lan.shtml

■技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

〈お問い合わせフォーム〉
http://www.planex.co.jp/support/techform/
受付：24時間
〈電話〉
フリーダイヤル：0120-415977
受付：月～金曜日、10～12時、13～17時
＊祝祭日および弊社指定の休業日を除く
〈FAX〉
ファクス番号：03-5614-1018
受付：24時間

◇お問い合わせ前のお願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力お願いいたします。

・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名（Windows XP/Meなど）
・ご利用のネットワークの環境（回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など）
・ご質問内容（現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください）

■その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

プラネックスコミュニケーションズ
http://www.planex.co.jp/

注)上記内容は2005年3月現在の情報です。内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

質問表

技術的なご質問は、この2ページをプリントアウトして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

プラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 :＿＿＿＿＿＿＿＿

会社名			
部署名			
名前			
電　話		ＦＡＸ	
E-MAIL			

製品名 Product name	IEEE802.11g 無線LAN ブロードバンドルータ
型番 Product No.	**BLW-54PM**
製造番号 Serial No.	

① ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

② ソフトウェア

ネットワークOS		バージョン	
OS		バージョン	

③ 質問内容